

伊藤ハムグループCSR報告書

2016

詳細版



目次

報告にあたって	2	ガバナンス	
トップコミットメント	3	コーポレートガバナンス	43
社是・企業理念と CSR	5	企業倫理規範	44
活動ハイライト		コンプライアンス	45
価値ある商品開発	7	リスクマネジメント	48
日本ユニセフの活動を支援	9	情報セキュリティ	48
地域社会貢献	12	環境	
女性活躍推進	15	伊藤ハムグループ環境	
お客様満足を目指して	17	基本方針	49
社会		環境負荷の全体像	50
お客様とともに	20	環境目標	51
社会貢献活動	27	環境マネジメント	54
従業員とともに	35	環境コミュニケーション	57
		環境負荷低減の取り組み	58
		環境会計	61
		環境データ	63
		環境保全活動の沿革	79

報告にあたって

編集方針

伊藤ハムでは2000年から「環境報告書」を発行し、今年で17回目の発行となります。2005年からは社会的側面の記述を充実させて「社会・環境報告書」として発行し、2008年から「企業の社会的責任」（Corporate Social Responsibility）に対する当社グループの取り組みを皆様にご報告する内容に改めて、タイトルを「CSR報告書」としました。

本報告書ではCSR活動のうち、ステークホルダーの皆様にご覧いただきたい特長ある取り組みに絞ってハイライトとして報告しています。CSR活動全般の取り組みは詳細版としてホームページで開示しています。

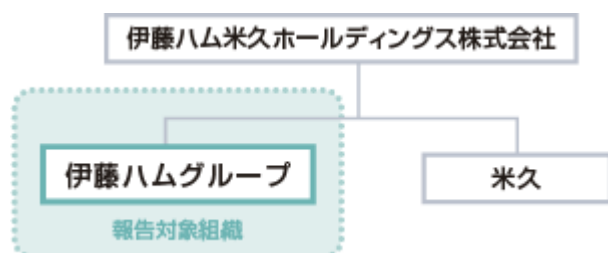
また、本報告書はホームページのみで開示しており、冊子の発行はしていません。

■伊藤ハムホームページ <http://www.itoham.co.jp>

対象範囲など

報告対象組織

基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは当社およびグループの生産工場に限定している場合もあります。



報告対象分野

伊藤ハムグループが取り組んでいる社会的活動および環境保全活動

対象期間

基本的には2015年度（2015年4月1日から2016年3月31日）の取り組みを報告していますが、一部では2015年度以前、以降についても報告しています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2012年度版）」

GRI「サステナビリティレポーティング ガイドライン第4版」

※「環境」の事業所写真は、原則として伊藤ハム（株）のものを掲載しています。関連会社の事業所を掲載した場合は、注釈に当該社名および事業所名を記載しました。

トップコミットメント

「食」を担う企業として 社会から信頼される企業であり続けるために



はじめに

当社グループは、1928年の創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」の社是のもと、皆様の健康にとって大切な動物性タンパク質である食肉や食肉加工品をお届けすることによって、食生活の向上に貢献してまいりました。

価値ある商品・サービスの提供を通して、「食べること」の喜びや楽しさを伝えていくことがグループの使命であると認識し、コンプライアンス体制の充実、経営品質の向上、地球環境への配慮、社会貢献活動など、積極的に推進しています。そして、こうした取り組みを通して、企業としての社会的責任（CSR）を十分に果たし、「食」を担う企業として社会から信頼される企業であり続けたいと考えています。

事業環境の変化に迅速かつ適切に対応するために

当社グループを取り巻く環境に目を向けると、国内では、人口動態・社会構造の変化に起因する一世帯人数の減少、共働き世帯の増加による消費行動の変化が見られます。さらに、グローバルな視点では原料調達から最終消費までのサプライチェーンに対して大きな変化が起きています。当社はこのような事業環境の変化に迅速かつ適切に対応する力が求められています。

こうした中、2016年4月1日から、当社と米久株式会社は経営統合し、持株会社である伊藤ハム米久ホールディングス株式会社が発足しました。今後は、これまで培ってきた互いの強みを持ち寄ることで統合の効果を最大限に発揮し、価値観を共有することで心をひとつにして、目まぐるしい事業環境の変化にも対応できる強いグループとなり、より大きく社会に貢献することを目指していきます。

コーポレートガバナンスの強化とコンプライアンス推進のための風土の醸成

当社グループでは、監督・監視など内部統制機能を充実させ、的確な経営の意思決定とスピーディな業務執行を行うとともに、コーポレートガバナンスの強化による透明性の高い経営を目指しています。

特にコンプライアンスの推進にあたっては、社長を議長とし、各事業部門長から構成される「コンプライアンス責任者会議」を頂点とする推進体制に加えて、「コンプライアンス委員制度」や「リーガルリスクマネジメント」を運用するなど、さまざまな施策を実施しています。

中でも「コンプライアンス委員制度」は職場の業務に根付いたコンプライアンスの推進と定着を目的としており、当社グループの特長的な取り組みといえます。2016年度はグループ全体で276名が委員に任命され、全国の職場で活動を推進しています。

また、CSRの取り組みを推進するためには、組織の風通しを良くし、従業員が会社に誇りを持ち、安心して働ける風土づくりも重要であると考えています。

2016年度で15回目となるコンプライアンス意識調査もその一環です。これまでの調査結果を深く分析・理解し、問題点への迅速な対処はもちろん、その結果を従業員にフィードバックするようにしています。こうした取り組みによって従業員の経営・組織に対する信頼感が醸成され、組織へのロイヤリティが高まり、ひいては、コンプライアンスを最重要視した職場風土の醸成につながるものと確信しています。

そして、これらの取り組みを支える中核としてCSR本部があり、各部門・グループ各社と連携して体制や制度の維持・向上に努めています。

食の安全・安心をお届けするために

透明性の高い経営、高い倫理意識とコンプライアンス推進の風土、こうした基礎が確立されたうえで、食品会社として最も重要なCSRは、お客様においしく、安全な製品を安心してお召し上がりいただくことです。品質管理を徹底することの重要性は言うまでもなく、当社グループでは、各生産現場・流通段階における管理、検査、点検を徹底するとともに、CSR本部が主体となる監査、点検も継続的かつ網羅的に実施しています。

「地球環境への配慮」と「社会との共生」をテーマにした社会貢献活動

当社グループは、良き企業市民として、「地球環境への配慮」と「社会との共生」をテーマにして、社会貢献活動を推進しています。全国の事業所周辺の清掃活動には、毎年数多くの従業員が自発的に参加しています。また、神戸市と包括連携協定を結び、市民・行政・企業が協働して森林保全活動を行う「こうべ森の学校」を支援するとともに、東京・八王子市の「高尾の森づくりの会」の活動にも参加し、間伐・植樹作業を実施するなど、自然環境保護活動も継続して取り組んでいます。

また、開発途上国の子どもたちを支援するユニセフの趣旨に賛同し、2008年から「タンザニア支援プロジェクト」として栄養事業を支援してまいりました。そして、2015年度から、アジアの子どもたちに教育の機会を提供するユニセフの活動を支援する「子ども未来プロジェクト」を開始しました。

これらの取り組みは、当社製品の販売数量に応じた寄付を行うもので、皆様のあたたかいご支援により、2008年からの7年間で寄付金の総額は1億円を超えました。今後も世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動しているユニセフへの支援を継続していきます。

一方、「食育活動」は食品企業ならではの社会貢献活動であり、さまざまな「食育活動」を通じて、食べることの喜びや楽しさ、大切さ、家族そろっての食事の大切さをしっかりと伝えていきます。

環境負荷を低減するために

継続的な環境保全と自然との調和・共生、地球環境に配慮した事業活動は、当社グループが企業の社会的責任を果たす基本姿勢と位置づけています。こうした考えのもと、省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減とリサイクルの推進、温室効果ガスの排出量削減など、さまざまな環境負荷低減活動に取り組んでいます。

2015年度は高効率タイプの冷凍機への更新、変圧器の更新、LED照明への切り替えなどを実施し、CO₂排出量の削減に努めました。

人材力を強化するために

「企業は人なり」という言葉を引用するまでもなく、企業にとって「人材」が重要であることはもちろん、従業員の成長なくして、企業の成長は望めません。「従業員一人ひとりの成長の総和が、当社グループが未来に向けて持続的に成長できる企業体になる基盤」と考えています。

さらには、従業員がやりがいを持っていきいきと働き、何がベストであるかを考えて、勇気を出して変革できる力を最大限に発揮できてこそ、CSRの確かな実践、さらなる深化につながるものと考えます。

このような考え方にのっとり、引き続き、従業員一人ひとりが特性を存分に活かして活躍できる環境の整備に努めていきます。

社会から信頼される企業であり続けるために

当社グループが真に社会から信頼される企業であり続けるために、今後もさまざまな課題にチャレンジし、持続的成長と企業価値のさらなる向上を目指していきます。

これらの活動につきましては、今後ともこの「CSR報告書」を通して開示していきます。当社グループの活動に対するステークホルダーの皆様のご理解と、皆様からの忌憚のないご意見・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

2016年9月
代表取締役社長
柴山育朗

社是・企業理念とCSR

社是

事業を通じて社会に奉仕する

企業理念

伊藤ハムグループは長期的な企業価値の向上を目指し、活力ある魅力的な企業、また、社会に貢献できる企業へ全社を挙げて取り組むことを基本方針としています。

- ① 使 命 (ミッション) 伊藤ハムグループは価値ある商品・サービスを提供することで、健全な生活の基盤となる「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを伝えてまいります。
- ② 経営姿勢
 - コンプライアンス(企業倫理の遵守)を徹底し、透明性の高い経営を行うことで、社会から信頼される企業を目指してまいります。
 - お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けいたします。
 - 環境にやさしい企業活動を推進いたします。
 - 社員は会社の大切な財産です。能力主義・成果主義を重視し、何事にもチャレンジする活力ある職場を目指します。
- ③ 行動規範
 - あらゆる法令や会社の規則を遵守し、社会良識に沿って行動します。
 - 議論は自由闊達、且つ徹底的に行い、決めた事はすぐに実行し最後までやり遂げます。
 - 慣習にとらわれず、常に新しい発想で、自主的に行動します。
 - 「強く 正しく 速しく」の伝統精神のもと、自己責任原則を徹底します。

伊藤ハムのCSR



お客様

お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けし、健全な生活の基盤となる食べることへの喜びや楽しさ、大切さをお伝えし、お客様に満足していただけるようなさまざまな取り組みを行います。

社会貢献

良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

従業員

従業員は会社の大切な財産です。その人格や個性を尊重しつつ、自己実現が達成できる仕組みづくりに努め、何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働ける職場環境の実現を目指します。

環境

環境関連法を遵守するとともに、省エネルギー、省資源、および廃棄物の排出削減を図りリサイクルを推進するなど、地域環境の保全と社会の共生に努めます。環境保全活動によって、循環型社会の形成と地球環境負荷低減に貢献します。

ガバナンス

社会の一員であるという認識を強く持ち、あらゆる法令や社会的規範、社会的良識に基づいて企業活動を行い、企業としての社会的責任を果たすべく、ガバナンス体制を強化しています。



「伊藤ハム・クリエーションラボ」開設



2015年4月、伊藤ハム・クリエーションラボ（ICL）を新たに開設しました。ICLはスーパー、コンビニなどのお得意先様にとって便利な場所で、当社の企画・営業・生産の中核がある東京都目黒事務所に設置しました。その立地条件を生かして、お得意先様との共創（Co-Creation）により価値ある商品提案をスピードよく行うことを目的としています。

お得意先様への
プレゼンテーション

年100回
以上実施

応える スピードあるレスポンス

お得意先様からいただいた課題に応えるサンプル作成は、ICLにて試作を行います。できたサンプルをすぐにプレゼンルームで確認していただくことや調整することができ、レスポンスよく商品イメージを掴んでいただくことができます。



ICLでの試作

考える 企画、営業、生産担当者とともに考え、たどり着く

当社の企画、営業、生産担当者と開発者が顔を突き合わせて、協力して商品を作り上げていくことで、さまざまなアイデアが飛び出し、魅力的な商品が生まれます。各部署の仕事の理解にもつながり、新たな発見が生まれます。



開発担当者と相談

生み出す さらに期待に応えるために

実際に店頭で商品が並ぶまでに、商品によっては何度もお客様と試行錯誤を行います。その間、毎週ICLに通われて商品を作り上げられたお客様もいらっしゃいます。今後もICLを積極的に活用し、期待に応える価値を共に創り上げていきます。



試作品を隣のプレゼンルームで確認

伊藤ハム・クリエーションラボ Itoham Creation Lab(ICL)

価値共創 Co-creation

試作・試食を行い
価値共創

お客様 Customer

お客様(お客様)の
課題をヒアリング

新機軸 Innovation

新機軸(イノベーション)
となる製法を提案

協力 Partnership

企画、営業、生産の
各部署が案を出し協力

解決 Solution

製造工程など
課題解決

生地の品質にこだわり、
開発をすすめました。



ピザガーデン



「子ども未来プロジェクト」を実施



© UNICEF/NYHQ2012-1895_Noorani

「アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる」という当社の経営ビジョンに基づき、アジアの子どもたちに教育の機会を提供するユニセフの活動を支援する「子ども未来プロジェクト」を2015年度より新たにスタートすることとなりました。

寄付金額(年間)

約2,400万円

学ぶ アジアの子どもたちに学校教育を

アジアでは、約1,800万人の学齢期（小学校）の子どもたちが学校に通えない状況となっています。こうした教育の機会を奪われがちなアジアの子どもたちに、教育の機会を提供することを目指すユニセフの「子どもにやさしい学校を広める教育事業」を支援します。



© UNICEF/LaoPDR00941_Holmes

支える タンザニア支援も継続中

2008年からユニセフ・タンザニア事務所が実施する「タンザニア・ザンジバルにおける急性栄養不良対策への総合的アプローチ」事業を支援しています。これまでの8年間で寄付総額は1億円を超えました。



上腕周囲測定テープで赤ちゃんの栄養状態をチェック

つながる 世界中の子どもたちに輝いてほしい

社是である「事業を通じて社会に奉仕する」のもと、食に携わる企業としての社会的責任を果たすべく、世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動しているユニセフを支援するため、従業員とともにも貢献していきます。



寄付金贈呈式



ユニセフ街頭募金活動 「ハンドインハンド」



ユニセフ立会い募金



ユニセフ立会い募金

子ども未来プロジェクトの仕組み

プロジェクトの仕組み
伊藤ハム
対象商品をご購入
いただくと

ポークビッツ
(71g、71g×2)



対象商品



PRIME あらびき
ブルメポーク
ウィンナー
(90g、90g×2)

対象商品1パックにつき
1円をユニセフに寄付します。



ユニセフ

「子どもにやさしい学校」を
アジアに広める
ユニセフの教育支援事業に
充てられます。



© UNICEF/LAOA2008-5755_Holmes



地域との連携で もっと必要とされる企業に



当社は2013年10月から神戸市と包括連携協定を締結しています。
神戸市灘区が本店所在地であることから、「神戸の皆様に貢献したい」との思いから始まりました。
現在も「食育」「防災」「地域活性化」など幅広い分野で連携事業に取り組んでいます。

イベント参加総人数
およそ

1,150名

教える 子どもから大人までに毎日の食事の 大切さを伝える「こうべ食育フェア」

2015年6月13日「こうべ食育フェア」に神戸の企業として参加しました。このフェアではウインナーの飾り切り実演と食育グッズ抽選会のブースを出展し、総勢750名の地域の皆様にご来場いただきました。子どもたちには食の大切さを伝え、保護者の方へは子どもへの食育の重要性を認識してもらうことを目的としています。



ウインナーの
飾り切り実演

育てる 六甲山を守る森林保全活動「こうべ森の学校」

神戸市は森林保全活動を進めており、その一環として市民・行政・企業が協働している「こうべ森の学校」を支援しています。活動資金を提供し、従業員ボランティアを派遣しています。2015年は総勢153名の従業員とその家族がボランティアとして参加しました。



神戸市建設局 末永局長より感謝状贈呈

守る 子どもの虐待防止活動 「こうべオレンジリボンキャンペーン」

2015年11月8日に神戸市主催の子ども虐待防止活動のイベントに参加しました。このイベントは児童虐待防止のシンボルマークであるオレンジリボンの周知、市民へ児童虐待の防止や早期発見の呼びかけを目的に開催されています。当社ブース内には約250名の親子が抽選を楽しめました。



食育グッズ抽選会

神戸市との 包括連携協定

六甲山自然環境
保全活動

神戸情報の
発信

食育

防災

災害時の食糧提供

災害発生時に神戸市の要請に基づき、100,000パック（1日10,000パック×10日）のレトルト食品などをすみやかに供給できる体制を整備しています。





女性がよりいきいきと活躍する 社会になるために



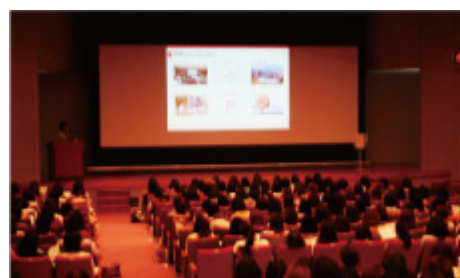
当社は、育児や介護など、社員それぞれの条件に関わらず、一人ひとりが働きがいを感じながら働くことができ、能力を十二分に発揮できる職場環境を実現するべく、多様な両立支援制度を設け、運用しています。また、女性がよりいきいきと活躍する社会となるための一助になりたいという思いから、社内での取り組みのみならず、社外に向けても積極的に活動を広げ、働く女性や女子学生を応援しています。

制度利用者数
(2015年度の延べ人数)

194人

伝える 神戸親和女子大学で講義

2015年6月10日、神戸親和女子大学で開催された「企業人による職業講話」に講師として参加しました。約300名の学生に対して、女性を取り巻く環境変化、講師本人の実体験などをお伝えし、将来のキャリアを考えるきっかけ作りのお手伝いをしました。



企業人による職業講話

語り合う 女性の活躍を考える公開座談会に参加

2015年9月9日、兵庫県立男女共同参画センターで開催された座談会に参加し、女性の活躍をテーマに体験談や思いを語り合いました。座談会には約50名が参加し、ディスカッションを通じて女性が社会でいきいきと活躍するために何が必要かを考えました。



座談会

作り上げる 女子高生とともに

茨城県取手市にある聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校の特別教育課程「商品開発プログラム」に当社社員が外部講師として参加しました。生徒は「女子高生のお弁当」をテーマに商品開発業務を疑似体験し、先輩社会人の女性との交流を通して、自らの将来像を作り上げるきっかけとなりました。



授業の様子

仕事と育児の 両立支援制度

産前産後休業

出産予定日前8週間～
産後8週間

育児休業

子どもが満1歳になるまで。
ただし、認可保育所に入ることが
できない等の場合は、
満2歳まで取得可能

育児短時間 勤務制度

小学校3年生修了まで

家族ケア休暇

中学校就学前の子の
看護等のために、
年10日を付与

ジョブリターン制度

結婚、出産、育児、
配偶者転勤の理由により
退職した女性社員の
再入社制度

社員の声

子どもが1歳の時点で保育園に入ることができず、悩みましたが、当社ではそのような場合に2歳まで育児休業を取得でき、とてもありがたく感じました。また、復帰後も、モチベーションが上がり、スキルアップできるような環境で仕事ができおり、以前よりも一層、働くことの楽しさや大切さを日々感じられています。



加工食品事業本部 生産本部
技術部 品質管理2課
石上 笑理



お客様の要望にこたえる



会議出席者一同

お客様相談室において、お客様の声に真摯に耳を傾けることはもとより、生産工場においても、商品に関するさまざまな質問に、誠実かつ迅速に対応できるように、お客様サービス担当のさらなるスキルアップを行いました

お客様相談室に
寄せられた声
年10,000件

傾聴する お客様の声に真摯な姿勢で

商品の特徴、食べ方、調理法、商品の保存に関すること、商品の栄養成分やアレルギー物質に関することなどさまざまなご質問が日々お客様相談室に寄せられます。お寄せいただいたご質問・ご意見を大切な資産として受け止め、真摯に耳を傾けるとともにわかりやすい情報提供を心がけています。



電話対応の様子

共有する お客様に「安心」を感じていただくために

2お客様相談室と生産工場のお客様サービス担当者が一堂に集い、お客様からどのような声をいただいているか、お客様対応のプロフェッショナルとしてどのように対応すべきかなど、情報共有するとともに、「誠実かつ迅速な対応」の重要性を再認識し、お客様にいつも「安心」と感じていただける製品づくり・サービスの向上に努めています。



会議での対応トレーニング

提案型のプロフェッショナルの育成

伊藤ハムフードソリューションの取り組み

（全国の主要百貨店などで、ハム・ソーセージや食肉・食肉加工品・惣菜・サラダなどを販売するグループ会社）



ミートコンシェルジュの
人数

12人

（2014年9月から育成をはじめ
2016年3月末現在）

ミートコンシェルジュは
腕章をつけています。

お客様にお肉をよりおいしく食べていただき、喜んでいただくために店頭でメニューを提案する肉のプロフェッショナル「ミートコンシェルジュ」が登場しました。

伝える 「食べる喜び」を積極的に発信する

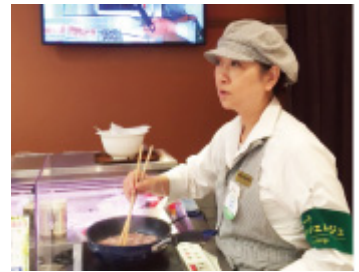
「お肉検定2級」の有資格者を前提として、社内で食肉研修、座学などのカリキュラムを受けた従業員を「ミートコンシェルジュ」に任命しています。

お客様との会話を通じて、お肉に関する知識や食べる喜びを伝えていきます。



提案する ミートコンシェルジュという仕事

お客様との会話を大切に、ご希望のお肉を購入いただくとともに、家庭でお肉を召し上がって幸せを感じていただけるように、おいしい食べ方や調理方法をご提案しています。





お客様とともに

お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けします。健全な生活の基盤となる食べることへの喜びや楽しさ・大切さをお伝えし、お客様に満足していただけるような、さまざまな取り組みを行っています。

▼ 安全・安心への取り組み

▼ お客様とのコミュニケーション

安全・安心への取り組み

中国・タイでも、「安全・安心」「おいしさ」「高品質」を追求した商品を提供

「アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる」というグループの経営ビジョンのもと、中国、タイで事業を展開しています。

中国では、食肉および加工食品に対する需要が急速に拡大する中、安全・安心な商品の安定供給が大きな課題となっています。このような課題に対応するべく、当社、三菱商事（株）、米久（株）の3社は、投資会社MIY（株）による出資を通じて、中国最大の食料関連国有企業である中糧集团有限公司（COFCO）が展開する、豚・鶏等の家畜生産と食肉処理・加工・販売、ならびに食肉輸入事業に参画しています。

また、近年中国では食文化の西洋化が進むとともに、食の安全に関する消費者の意識が高まるなど、品質の高い製品を求める傾向が強まっています。このような消費者のニーズに応えるため、当社の子会社「伊藤食品商貿(上海)有限公司」は年間を通じ、中国の生活シーンや各種イベントに合わせて、西洋式ハム・ソーセージの楽しみ方を提案しています。

タイにおいては、当社、タイ ベタグロ社、タイ味の素社が2009年、合併会社（イトウハム・ベタグロ・フーズ社）を設立し、食肉加工品を製造・販売するとともに、日本、シンガポール、カンボジア、ラオスへの輸出販売事業を展開しています。近年、タイでは日本食がトレンドになっており、タイの消費者は日本の食品に対して、「安全・安心」「高品質」のイメージを抱いています。イトウハム・ベタグロ・フーズ社は、日本の製造ノウハウを導入し、タイ ベタグロ社の安全な原料を使用し、日系メーカーとしてアジアに向けた販売を拡大しています。

これからも、当社は中国・タイにおいて、「安全・安心」「おいしさ」「高品質」を追求した伊藤ハムブランドの商品を提供し続けていきます。



中国のスーパーの店頭および中国で販売されている商品



タイのスーパーの店頭およびタイで販売されている商品



中国の「こどもの日」に実施したハム・ソーセージの「飾り切り」販促イベント

ISO22000の運用により、食品安全を推進

伊藤ハムグループの食肉加工施設および食肉加工品生産施設では、ISO22000（食品安全マネジメントシステム）を運用することで、食品安全に取り組んでいます。ISO22000は、品質管理の国際規格であるISO9001をベースとして、工程管理にHACCP（総合衛生管理製造過程）を取り入れた食品安全に特化した国際規格です。

伊藤ハムグループでは、2005年12月にグループ会社であるサンキョーミート（株）有明ミート工場が、食肉業界で初めてISO22000の認証を取得しました。以降、IHミートパッカー（株）、IHミートソリューション（株）、（株）藤栄、沖縄フレッシュパック（株）が認証を取得し、2008年までに食肉事業本部の全生産事業所が認証取得を完了しました。

さらに、ハム・ソーセージの生産工場では、グループ会社である筑紫ファクトリー（株）北九州工場が2009年にISO22000の認証を取得しました。



ISO22000適合証明証

品質理念

私たち伊藤ハムグループは、すべての事業活動において「お客様第一」を念頭に品質管理に取り組み、お客様においしく、安全で安心な商品やサービスの提供をお約束します。このお約束を守るため、伊藤ハムグループでは下記の「品質方針」を定めて事業活動に取り組みます。

品質方針

1. お客様の声に真摯に耳を傾け、お客様のニーズに沿った商品の開発やサービスの向上に努めます。
2. お客様の立場になり、正確で分かりやすい情報提供を心がけます。
3. 調達、生産、物流、営業、販売に至るまで、より高い品質を追求し安全を確保する体制を構築します。
4. 伊藤ハムグループの一人ひとりが、お客様に安全で満足いただける品質を目指します。

品質保証連絡会でお客様のご意見を共有しています

伊藤ハムグループは、商品の安全や品質の向上に関わる情報を関連部門間で共有し、速やかに改善を進めるために、各部門の品質管理責任者が一同に集う「品質保証連絡会」を定期的開催しています。

また、会議ではお客様から当社へいただいた貴重なご意見についても情報を共有するとともに、改善策を話し合い、お客様のニーズを反映した商品開発やサービスの向上の実現に向け、真摯に取り組んでいます。

2015年3月には品質保証連絡会で伊藤ハムグループ品質方針を定めました。

安全・安心への取り組みをホームページでご紹介

安全でおいしい商品をつくるため各工程での品質管理や法令や運用規則が守られるよう客観的にチェックし、改善を支援する品質保証の取り組みについてホームページで詳しく説明しています。



安全・安心への取り組みサイト
<http://www.itoham.co.jp/corporate/safety/>

関連法令への対応とともに、アレルギー物質の表示についても分かりやすさを追求

食品表示は、お客様にとって非常に重要な情報です。伊藤ハムグループでは、生産・販売している各食品について関係法規を遵守し、お客様にできるだけ分かりやすく表示するよう取り組んでいます。

アレルギー疾患をお持ちのお客様にとって、乳・卵・小麦等の食物アレルギー物質の混入防止と、アレルギー物質の表示は特に重要だと考えています。そのため、生産施設でのアレルギー物質の混入防止対策マニュアルを作成・運用するとともに、原材料および製品への混入防止、製造機器への混入をチェックする検査などの対策を行っています。さらに、含有アレルギー物質をより分かりやすく表示するよう工夫し、製品の含有アレルギー物質のみではなく、必要に応じて製造施設でのアレルギー物質の使用状況も表示しています。

また近年、食品表示の偽装が社会問題となり、商品の誤認表示を規制する景品表示法の改正が進められたことから、当社は同法に準じた食品表示方法の整備・運用を推進してきました。マーケティング部門をはじめとする関連部署が作成する表示・キャッチフレーズの強調表示については、必ず根拠を明確にした上で作成することを徹底しています。さらに、作成された表示・キャッチフレーズは、表示制度の専門知識を有する表示管理担当部門による事前チェック・承認を実施しています。加えて2015年度は、従業員の知識向上を図るために、景品表示法の改正内容やキャッチフレーズ作成時の留意点を中心とした、表示に関する勉強会を合計13回開催し、延べ335名が参加しました。

あわせて、CSR本部品質保証部は、生産・調達・マーケティング・営業の関連部門とともに、定期的に「表示・デザイン会議」を開催し、法令遵守はもちろん、お客様の視点に配慮した社内表示基準を策定し、全社規程として運用しています。

2016年度は、2016年4月に施行された食品表示法の内容を確認し、旧食品衛生法・JAS法・健康増進法などの関連法を確認するとともに、表示方法の変更点を整理しながら、今後の商品表示について検討し、順次表示を切り替えていく予定です。

グループ内の工場はもちろん、社外協力工場にも監査を実施し、安定した品質を確保

CSR本部品質保証部では、お客様に安全・安心な商品を提供するために、伊藤ハムグループの各施設が適正に運用されているかなどについて、定期的、臨時的な監査・点検を実施しています。

伊藤ハムグループの生産施設に関しては、北海道・東北地区、関東地区、中部・北陸地区、関西地区、九州・沖縄地区に常駐の監査員を配置し、日々の生産活動や品質管理活動をチェックしています。生産工場では、厚生労働省承認の総合衛生管理製造過程（いわゆるHACCP）にて設定した基準、あるいはISO22000の要求事項などが適正に運用、生産されていることなどについて、各工場の品質管理部門と連携して監査・点検を実施しています。また、これらの常駐監査とは別に、年に1回、全施設に対して食品衛生に関する内部監査を実施し、食品衛生に関するリスク評価を行い、管理レベルの向上を目指しています。さらに、生産施設だけでなく、営業所、物流拠点、デパートといった直売店などに対しても、定期的な監査・点検を実施しています。

あわせて、当社以外の協力工場の監査・点検に対しては、定期監査や、新規に取引する場合に事前に実施する新規検査などを実施し、社外協力工場で生産される商品の品質向上に努めています。2015年度は、約150におよぶ社外協力工場に対して監査を実施するとともに、当社の品質保証部が品質管理に関する教育を実施しました。

異物混入から食品を守る「フードディフェンス」を強化しています

2014年、食品業界では異物混入事件が大きな社会問題となったことを受け、伊藤ハムグループは、お客様に安心して商品を召し上がっていただくために、意図的な異物の混入から食品を保護する「フードディフェンス」に継続して取り組んでいます。

「伊藤ハムグループ フードディフェンス方針」に基づき、ハード面においては、チェックリストによる敷地・施設の脆弱性の点検、生産施設でのカメラの増設などを実施し、外部からの不審者侵入の抑制や監視を行っています。また、ソフト面においては、従業員とのコミュニケーションを重視し、職場環境を活性化することで、異物混入をはじめとする不祥事を未然に防げるような企業風土づくりを推進しています。

伊藤ハムグループは、今後もフードディフェンスの強化に努め、安全で品質の良い商品を作り続けることができるよう、全社一丸となり真摯に取り組んでいきます。

お客様とのコミュニケーション

「もっとおいしくコミュニティ」を通じてお客様の声を商品づくりに生かしています

「もっとおいしくコミュニティ」は、伊藤ハムが企画・運営するモニター組織です。「お客様の視点からの自由な発想によるご意見」によって、当社の商品をより良いものにすることを目的として、2004年11月からスタートしました。登録メンバーは、30代～60代のご自身が調理を行う主婦層が中心です。登録メンバーの皆様からのご紹介によって、少しずつメンバー数を拡大しており、2016年6月現在、553名の方が登録されています。（※現在も口コミ紹介という形で新規会員を募集しています。）

メンバーの皆様にはグループインタビューやアンケート調査に参加いただき、商品に対するご意見や生活意識について伺うことで、商品の開発や改良、マーケティング施策のヒントにさせていただいています。2015年度には、「ピザガーデン」の味覚およびパッケージに対するご意見を伺い、リニューアルに伴う規格変更の参考にさせていただくなど、東京12名・関西12名の合計24名のモニターを対象に合計7回のグループインタビューを開催しました。

このような活動に加えて、今後は、店頭で商品を購入していただいた上で、使い勝手やご家族の反応などを伺いするような取り組みも実施していきたいと考えています。

「もっとおいしくコミュニティ」モニターの声

- さまざまな取り組みが分かり、伊藤ハムに親近感がわくようになりました。
- グループインタビューでは、日頃、「こうだったら良いのに」と思っていた意見を言うことができました。参加して良かったです。
- 今まで気づかなかったこと、知らなかったこと、多くの新しいことを教えてもらい、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

お客様相談室へのお問い合わせに対して、誠意ある対応を迅速に行っています

伊藤ハムグループお客様相談室は総勢6名のスタッフでフリーダイヤル、ホームページ、お手紙などを通じて、お客様からのお問い合わせ・ご意見に対応しています。2015年度には、主として「食べ方・調理方法」、「保存方法」、「キャンペーン内容」について、総数約10,000件のお問い合わせ・ご意見をいただきました。

特にお問い合わせについては、電話で内容を詳しく伺い、誠意ある対応を迅速に行うことを心がけています。また、ご指摘いただいた内容は関係部署と情報を共有し、問題点の抽出・改善に努めています。

■お客様の声伝達経路



例えば、グランドアルトバイエルンの場合…



Facebookの公式サイトで、お客様との共感を育むコミュニケーションを展開～ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の活用～

伊藤ハムは、「グランドアルトバイエルン」や「伝承」ギフトなどお客様から広くご支持いただいておりますが、原料価格の高騰やデフレの継続など大変厳しい市場環境が続いています。このような状況の中で、お客様に伊藤ハムをより身近に感じていただき、さらに店頭で「伊藤ハムブランド」を第一に想起していただくために共感を育むコミュニケーションを図る必要がありました。

その施策として、より多くのお客様に伊藤ハムのファンになっていただくとともに、企業ブランド価値向上を図る目的で、2011年よりソーシャル・ネットワーキング・サービスのFacebookに公式サイトを開設しました。

面持ちが哀愁漂うキャラクター「ハム係長」を通して、お客様との親密なコミュニケーションを図り、現在約15万人のファンの方々に共感いただいています。

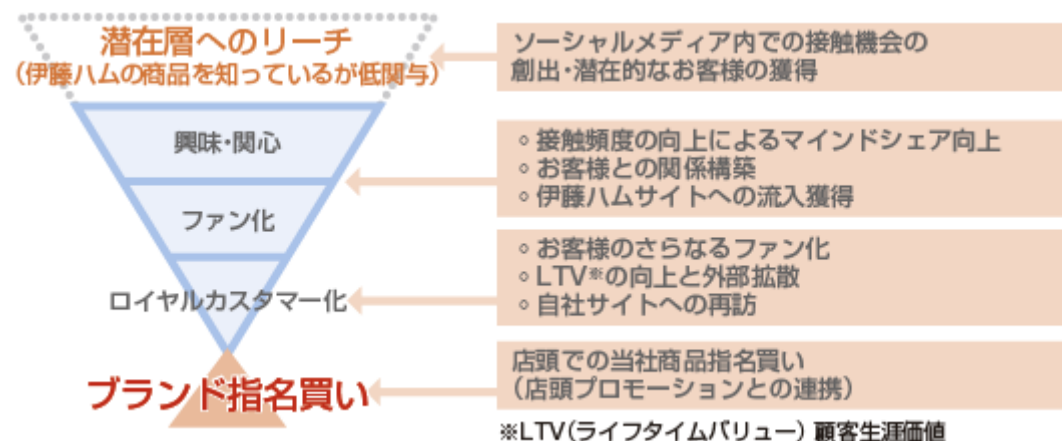
今後も時節にあったレシピの紹介やハム係長のキャラクター特性を生かしたコメントも交えるなどお客様一人ひとりの心に寄り添う真摯な対応と、温かいコミュニケーションを心掛けていきます。



■ ソーシャルメディア展開の概要



■ ソーシャルメディアマーケティング施策の目的



■ ソーシャルメディアの取り組み経緯

2011年	
4月	● Facebookに公式サイトを開設
6月	● NHK「あさイチ」に出演
7月	● Facebookの「いいね！」数が1万人を突破
8月	● Twitterを使ったアルトバイエルンキャンペーンを実施
2012年	
1月	● ハム係長の部下キャラクター「アサノフレミ」がFacebookに公式サイトを開設 ● NHK「さきドリッ」に出演
5月	● 初のレシピ本『ハム係長のとおきおきレシピ』を発刊
9月	● Facebookの「いいね！」数が3万人を突破
2013年	
4月	● Facebookの「いいね！」数が5万人を突破
7月	● NHK「クローズアップ現代」に出演
9月	● 映画「鷹の爪GO～美しきエリエール消臭プラス～」に出演 ● フジテレビ系列「とくダネ！」に出演
11月	● NHK「めざせ！会社の星」に出演
2014年	
3月	● Facebookの「いいね！」数が7万人を突破
2015年	

1月 • Facebookの「いいね！」数が10万人を突破

2016年

2月 • Facebookの「いいね！」数が15万人を突破

お客様の声

- ハム係長の大ファンでアプリも入れています。伊藤ハムのイメージが身近に感じられるようになりました。
- お弁当作りで悩んだ時、まず見るのが伊藤ハムのFacebookです。簡単に見ることができて重宝しています。
- ハム係長を知ったのがきっかけになって、伊藤ハムの商品にも興味がわき、買ったり、探したりするようになりました。



社会貢献

伊藤ハムグループの社是のもと、良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切に、社会貢献活動を持続的に推進します。

社会貢献活動方針

- ▼ 「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。
- ▼ 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。
- ▼ ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します。
- ▼ 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。
- ▼ 従業員の意思と責任に基づくボランティア活動を支援します。

「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います

「食育」に関する基本理念

2005年に「食育基本法」が公布されてから「食」への関心が高まり、企業や学校、地域でさまざまな取り組みが行われています。

伊藤ハムグループでは2007年1月、「食育に関する基本理念」を制定。「食」に携わる企業として、食べることの喜びや楽しさ、大切さを伝える活動を積極的に展開しています。

食育活動理念

伊藤ハムグループは、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさを伝え、今、求められている「家族そろっての食事」が、語らいや団らんを育むことを伝えていきます。

メインメッセージ

伝えていきたい食べる喜び

食育活動方針

- 安全・安心で良質なたんぱく質を提供します
- 正しい食習慣をサポートします
- 貴重な食資源を大切にします
- 楽しい食文化を発信します

コーポレートメッセージ

あふれる笑顔

お客様の「あふれる笑顔」を実現させるために、食育活動を推進してまいります



PICKUP

子どもたちの「食」への興味を高める さまざまな食育イベントを実施

子どもたちの「食」に対する興味・関心を高めるとともに、地域社会とのコミュニケーションを深めることを目的に、「ウインナーの飾り切り教室」や「手作りウインナー教室」など数々の食育イベントを行っています。

2015年度は、「ウインナーの飾り切り教室」をはじめとする伊藤ハム主催の食育イベントを開催し、約1,270名の方にご参加いただきました。

あわせて、食育フェアなどのイベントに合計4回出展し、約1,490名の方に「ウインナーの飾り切り実演」や「食育グッズ抽選会」などを楽しんでもいただきました。



ウインナーの飾り切り実演

ウインナーの飾り切り教室

ウインナーを使って、「ウサギ」や「ひまわり」などを作る飾り切りを楽しんでもいただきます。お子様から大人の方まで、食べる喜びや大切さを知っていただきたいという思いから、全国各地で活動が続けています。



参加者の声

子どもに食事・料理に対する興味を持たせたいと思って参加しました。とても良い機会になったと思います。

手作りウインナー教室

西宮工場などで「手作りウインナー教室」を開催しています。親子で仲良くウインナーを作って試食し、工場でウインナーの製造工程を見学していただくなど、ご家族で「食」の体験を楽しんでいただいています。



参加者の声

なかなかできない体験ができて、とても楽しかったです。

参加者の声

子どもでも簡単に、ウインナーを手作りできました。ウインナー作りの工程もよく分かりました。

豚肉のカッティングデモ・料理教室

豚肉のカッティングの実演と、親子で料理にチャレンジすることを通じて、命をいただくことの大切さや食べる楽しさ、お肉の効用や食事バランスなど、「食」について学んでもいただきます。



保護者様の声

豚も生き物であり、残さずいただくことは大事なことです。そのことを子どもも理解した様子でした。

お子様の声

みんなで力を合わせて、おいしい料理ができました。豚肉のカッティングは、迫力まんてんでした。

地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます

“食とeco”わくわく探検隊

食べ物と環境のかかわり、自然環境と生命の大切さを伝えることを目的に、地球環境にやさしい炊事や自然観察を体験していただくイベントを実施しています。地元で採れた旬の食材を使って、省エネで地球環境にやさしい料理を作るプログラムなどを実施し、200組を超えるご応募の中から、2015年5月には14家族46名、同年10月には16家族44名にご参加いただきました。参加者の方からは、「調理しながら“eco”を学ぶことができ、とても楽しかった」といったお声をいただきました。

このイベントは2005年から実施しており、2015年10月で20回目の開催となりました。2016年度も継続して、このイベントに取り組みたいと思います。



エコロジークッキングの調理の様子



たい肥を活用してひまわりを栽培「サンサンひまわりプラン」サンキョーミート

サンキョーミートは、社会貢献活動の一環として、牛や豚から発生するたい肥を有効利用、たい肥を敷いた土地に、鹿児島県志布志市の市の花である「ひまわり」を植え、収穫した種から「ひまわり油」をつくる「サンサンひまわりプラン」に参画しています。

2015年度は新入社員（20名）が主体となって、種まきを実施、従業員同士がチームワークを高め、親睦を深める良い機会となりました。



ひまわりの種まきの様子



東海、北陸地方の小学生とご家族を対象に手洗いを指導

2015年7月28日に伊藤ハムデリー北陸工場で東海北陸厚生局主催の「食の安全に関するリスクコミュニケーション」が開催されました。富山県の小学校3～6年生とそのご家族を対象に手洗い教室、ウインナー手作り教室、工場見学等を行い、衛生管理への興味と理解を深めていただきました。「手洗い教室」では、汚れの代わりにブラックライトで発光するクリームを手に塗り、手洗いをしてどれくらい落ちているかを確認し、手洗いの重要性を確認しました。「ウインナー手作り教室」では羊腸に味付け肉を充填する体験や実食を兼ねての教室でしたので参加者全員に大変好評を博しました。工場見学では、普段目にするのことがない原料肉や製造機器をみて驚嘆しながらも各製造責任者の製造工程の説明に熱心に耳を傾けておられました。



手洗い前と手洗い後で汚れの落ち具合を確認



手作りウインナー教室



工場見学



参加者全員で記念撮影

地元のサッカーチーム「ヴィッセル神戸」に協賛

伊藤ハムは、Jリーグ所属のサッカーチーム「ヴィッセル神戸」に協賛しています。「地元プロサッカーチームの活性化、地域振興とともに、子どもたちが身近にプロスポーツに触れ、夢を持つことができる環境に貢献したい」という思いで、1995年のヴィッセル神戸発足時よりスポンサーとして協賛しています。

ヴィッセル神戸のホームゲームを盛り上げるべく、毎年、当社スポンサーデーを設け、さまざまなイベントを実施しています。



抽選会の様子



スタジアムの様子

ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します

アジアの子どもたちに教育の機会を提供する「子ども未来プロジェクト」新たに開始

2016年1月、伊藤ハムはアジアの子どもたちに教育の機会を提供するユニセフの活動を支援する「子ども未来プロジェクト」を新たに開始しました。このプロジェクトは、当社の対象商品の売り上げの一部を寄付することによってユニセフの活動を支援するもので、2015年度は1,226万3,400円をユニセフへ寄付しました。寄付金は、学校・教室の建設、性別や障がい配慮したトイレや手洗い場などハード面での支援、職員への研修、新規教員の育成、就学前の幼児ケア・教育等ソフト面での支援に役立てられる予定です。



(ラオス) 子どもたちの授業の様子
(c) UNICEF/LAOA2006-5008_Holmes



タンザニアの子どもたちを栄養不良から守るユニセフの活動を継続的に支援

伊藤ハムは、タンザニアの子どもたちを栄養不良から守るためのユニセフの活動をサポートする「タンザニア支援プロジェクト」を2008年から継続して実施しています。このプロジェクトでは、当社対象商品の売り上げの一部を寄付することで、ユニセフがタンザニアで展開する栄養支援プログラムを援助しています。

2008年度から2015年度まで8年間の寄付総額は1億円を超えました。寄付は全額、ユニセフがタンザニア連合共和国ザンジバル島とペンバ島で展開する「タンザニア栄養支援プログラム」に充てられています。具体的には医療スタッフの育成、栄養補助食品の提供に活用され、プログラムの成果拡大に貢献しています。



上腕周囲測定テープで赤ちゃんの栄養状態をチェック



森林や河川などの自然環境保護活動を支援します

「こうべ森の学校」に活動資金を提供し、従業員ボランティアが参加

神戸市は、2002年に緑化100周年を迎えた六甲山系において、これからの100年の森林保全と育成を目指した「六甲山これからの百年の森づくり」を進めています。その一環として、六甲山系の再度山（ふたたびさん）を拠点に、市民・行政・企業が協働して森林保全活動を行う「こうべ森の学校」を、伊藤ハムは支援しています。

「こうべ森の学校」では、市民が植樹や間伐をはじめとする森林の手入れを行うほか、間伐材など森の恵みを利用したログハウスづくり、木工品の制作などの活動も展開しています。伊藤ハムは、自然環境保護活動の一環として活動資金を提供し、従業員ボランティアを派遣しています。また、参加者には毎回当社製品をプレゼントしています。

2013年10月8日、伊藤ハムは神戸市と包括連携協定を結び、「こうべ森の学校」を引き続き10年間支援することを約束しました。当社は「こうべ森の学校」をこれからも継続して支援し、森林保護活動を積極的に実施します。皆様もぜひ活動にご参加ください。

「こうべ森の学校」

- ・活動日： 定例活動日は奇数月の第二土曜日、偶数月の第三日曜日
ウィークデー森の手入れは毎週火・木・土
ウィークデー木工教室は毎月第二火曜日
- ・活動時間： いずれも10:30～15:00
- ・連絡先： 神戸市建設局 公園部 森林整備事務所
- ・電話番号： 078-371-5937
- ・こうべ森の学校のWebサイト：http://kobe-mori.jp/morigaku_hp/
もしくは「こうべ森の学校」で検索！



「こうべ森の学校」



森の手入れ作業の様子



感謝状授与式



参加賞配布

従業員の意思と責任に基づくボランティア活動を支援します

社会貢献推進期間

毎年9月～10月を『伊藤ハム社会貢献推進期間』と定め、従業員の意識向上と積極的な社会参加を目的とした活動を各地区で実施しています。2015年は17回のイベントを実施し、参加した従業員は2014年に続き400名を超えました。

社会貢献表彰制度

顕著な社会貢献活動を継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。

ボランティア休暇制度

ボランティア活動に参加する場合、取得できる「ボランティア休暇制度」を設けています。

ボランティア体験イベント

ボランティア意識向上と、社会貢献活動への参加を促すために、「ボランティア体験イベント」を開催しています。

従業員ボランティアによるイベントを開催

従業員ボランティアが運営する社会貢献イベントを各地で開催しています。



従業員とともに

従業員は、会社の大切な財産です。教育制度の充実はもちろん安全衛生、健康管理に配慮し、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティへの取り組みも行っています。何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働ける職場環境の実現を目指します。

▼ ワーク・ライフ・バランス ▼ 人材育成 ▼ 労働安全衛生 ▼ 健康管理

▼ ダイバーシティの尊重

ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランス推進委員会を設置

伊藤ハムグループは、育児や介護など、従業員それぞれの状況に関わらず、一人ひとりが生きがいを感じながら働くことができ、能力を存分に発揮できる職場環境を目指して、その実現に向け取り組んでいます。2013年度に設置した「ワーク・ライフ・バランス推進委員会」では、「メリハリのある働き方の実現」「女性の活躍をサポート・促進する体制の構築」を重点課題として定め、取り組み計画を策定しました。

さらに2014年度から、各地区・各社で任命されたワーク・ライフ・バランス推進担当者が育児や介護の相談窓口として役割を果たしているほか、取り組み計画に基づくさまざまな施策の浸透や利用促進に取り組んでいます。

これらの取り組みが評価され、2014年10月、ひょうご仕事と生活センターから「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」に認定されました。

※ ひょうご仕事と生活センターは、「仕事と生活のバランス」の取り組みを全県的に推進する拠点として、兵庫県、連合兵庫、兵庫県経営者協会と協働のもと、平成21年に設置されました。



ひょうご仕事と生活の調和推進企業認定証を授与される松崎人事総務部部長（右）

メリハリのある働き方の実現を目指して

メリハリのある働き方ができる職場環境を醸成するため、事前残業申請制度の導入、管理職の労働時間管理の強化、「ノー残業デー」の設定などを実施し、所定外労働時間の削減に努めています。また、女性活躍推進法に基づく行動計画には有給休暇の年間取得日数を定め、計画的年次有給休暇制度の運用などにより、取得の推進に取り組んでいます。

女性リーダー層の育成

当社グループのさらなる飛躍を支えるのは人材力であり、貴重な人材である女性の活躍が不可欠です。女性がより重要な役割・責任を担い、将来的に経営や事業の意思決定に参画することが、企業競争力・企業価値の向上につながると考えています。このような考え方のもと、2015年度には1.5%であった女性管理職比率を、2018年度までに3.0%に増加させることを目指しています。

この目標の達成に向け、女性従業員の積極採用、女性従業員を対象とした研修、仕事と育児・介護等の両立支援、就業継続支援制度(ジョブリターン制度など)によって、女性リーダー層の育成に取り組んでいます。



女性リーダーエンカレッジ研修

仕事と育児・介護との両立支援

仕事と育児・介護を担う従業員が、職場において能力を存分に発揮できるよう、「育児休業者職場復帰支援プログラム(ハムママコミュニティ)」「短時間勤務制度」「時差勤務制度」など、さまざまな両立支援制度を整備しています。

各地区・各社に任命したワーク・ライフ・バランス推進担当者がこれら制度の浸透・利用促進に取り組んでいるほか、「仕事と育児の両立ハンドブック」「仕事と介護の両立ハンドブック」を作成し、社内イントラネットで閲覧できるようにしています。

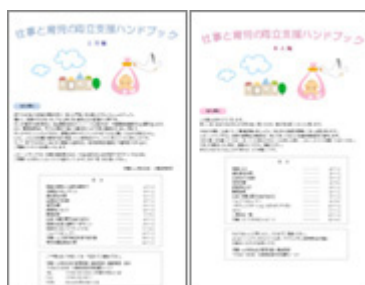
さらに2015年度から、多様な働き方の実現を目指す検討チームを発足させ、短時間勤務制度の拡充を行うとともに、在宅勤務制度の導入に向けて活動を展開しています。



ハムママコミュニティ

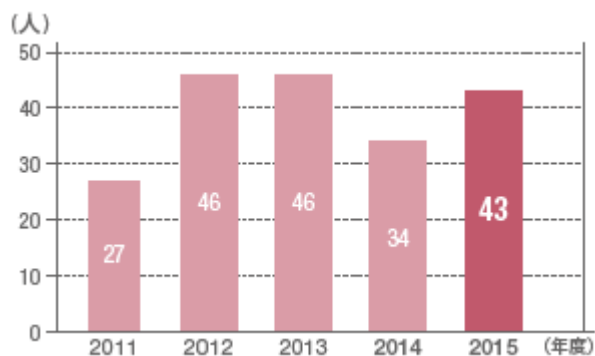


次世代認定マーク
「くるみん」



仕事と育児の両立支援ハンドブック

■ 育児休業者数



■ 育児と仕事の両立支援制度

制度	内容
産前産後休暇	出産予定日8週間～産後8週間
育児休業	子どもが満1歳になるまで ただし、認可保育所に入ることができない等の場合は、満2歳まで取得可能
育児短時間勤務制度	小学校3年生修了まで
家族ケア休暇	中学校修学前の子の看護等のために、年10日を付与
ジョブリターン制度	結婚、出産、育児、配偶者転勤の理由により退職した女性社員の再入社制度

社員の声 両立支援制度利用者

柔軟な制度を活用して、楽しく働くことができます

子どもが1歳の時点で保育園に入ることができず、悩みましたが、当社ではそのような場合に2歳まで育児休業を取得でき、とてもありがたく感じました。また、復帰後も、モチベーションが上がり、スキルアップできるような環境で仕事ができおり、以前よりも一層、働くことの楽しさや大切さを日々感じられています。今後は品質管理のエキスパートとなり、管理職を目指していきたいです。

加工食品事業本部 生産本部 技術部 品質管理2課

石上 笑理



人材育成

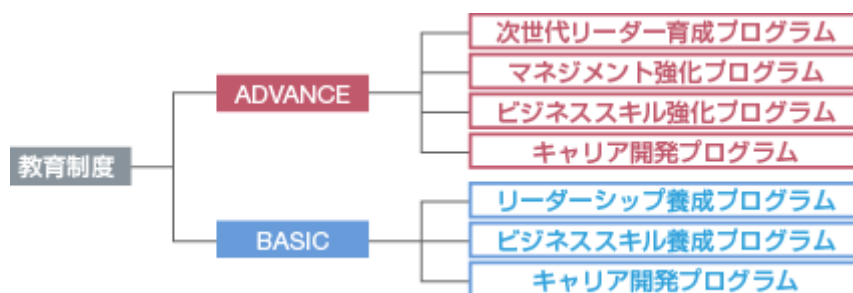
一人ひとりの成長と組織の発展のために、2つの教育コースを用意

伊藤ハムグループは、従業員一人ひとりの成長と組織の発展を実現することを狙いとして、教育制度において大きく2つのコースを用意しています。具体的には、全従業員を対象とし、ビジネスに必要な基本的なスキルの習得とキャリア開発を目的とした「BASICコース」と、人や組織のマネジメントに求められるスキルの習得とその強化を目的とした「ADVANCEコース」を設けています。

教育プログラムとしては、「BASICコース」において「リーダーシップ養成プログラム」「ビジネススキル養成プログラム」「キャリア開発プログラム」を、また「ADVANCEコース」には、「次世代リーダー育成プログラム」「マネジメント強化プログラム」「ビジネススキル強化プログラム」「キャリア開発プログラム」を設けています。なお、高い成長意欲を持つ従業員に対し積極的に学習の場を提供するため、教育研修の中には応募型で受講者を募るプログラムも用意しています。2015年度において、延べ1985名がこれらの教育プログラムを受講しました。

また、伊藤ハムグループは、資格の取得に積極的に取り組む従業員を支援するための資格取得支援制度や、自ら学ぶ姿勢をサポートする自己啓発支援制度を整備することで、通信教育講座や社外スクール講座の受講を後押ししています。2015年度には合計67名（資格取得支援制度 31名、自己啓発支援制度36名）がこれらの制度を利用し、奨励金を受給しました。

■ 教育制度の体系



■教育プログラム

ADVANCE	2 級	主 任	主 事	管理職
次世代リーダー育成プログラム			ビジネスリーダー研修	マネジメントリーダー研修
マネジメント強化プログラム			マネジメントスキル研修	
			新任役職者研修	
				新任管理職研修
ビジネススキル強化プログラム		課題解決力強化講座・部門実践講座		
キャリア開発プログラム			女性リーダーエンカレッジ研修	

BASIC	2 級	主 任	主 事	管理職
リーダーシップ養成プログラム	リーダーシップ養成研修			
ビジネススキル養成プログラム	論理的思考・課題設定力講座・課題解決力講座			
	コミュニケーションスキルアップ講座			
	部門スキルアップ講座			
	自己啓発支援制度(ビジネススクール／通信教育)・資格取得支援制度			
キャリア開発プログラム	3年目フォロー研修 ↑ 2年目フォロー研修 ↑ 新入社員フォロー研修 ↑ 新入社員入社時導入研修	主任キャリアチャレンジ研修	主事昇格時研修	
		女性キャリアデザイン研修		レビュー者研修
	ミドルエイジキャリア支援研修			

※図に示したプログラムのほかに、別途、メンター制度においても育成支援教育を実施しています。

ジョブチャレンジ制度の導入などで、人材の活躍の場を拡大

中長期的な視点に立ち、従業員自身が目標やキャリアビジョンを立てて上司と面談するキャリア面談や、同一部署での長期滞留による弊害を排除すべくジョブローテーションを実施しています。また、やる気のある人材の活用を促進するために、「社内フリーエージェント※1」「社内公募※2」などのジョブチャレンジ制度を導入・強化し、人材の活躍の場を広げています。

2015年度には、「社内フリーエージェント」に5名の応募があり、うち3名の成立に至りました。「社内公募」については10案件に対して14名の応募があり、8名を採用しました。

※1 基準となる資格をクリアした従業員が、異動を希望する部門へ自分のキャリアを売り込む制度

※2 新規事業や欠員補充などの人員配置のための募集を社内で募集する制度

新入社員を職場全体で計画的・重点的・継続的に育成する、メンター制度

新入社員・若手社員の能力を迅速に向上させ、早期かつ着実に即戦力へと育成するために、メンター制度を2012年から導入しています。この制度は、新入社員1名に対して1名以上のメンターを任命し、育成責任者である上司のもとメンターは育成のプロデューサーとなって、職場全体で新入社員を計画的・重点的・継続的に育成・指導するものです。

このような制度の運用によって、現在、2年目社員からベテランまで新人育成の機会を得ています。今後、先輩が後輩を育成するサイクルが職場に定着することを目指して、伊藤ハムグループの継続的な発展に寄与する、人材育成の揺るぎない基盤を築いていきます。

社員の声 研修担当者

2016年度は、メンター制度導入から5年目を迎えました。これまでのメンターたちの活動やメンティー（当社の場合は新入社員を指す）たちの成長により、メンター制度も浸透し、社外からは“若手の人材育成といえば伊藤ハムグループのメンター制度が参考になる”と取材依頼を受けるまでになりました。

制度導入時から最終ゴールは、制度がなくても“先輩が当たり前に関わり育てる風土の醸成”です。これを10年間で目指すなか、5年目を迎えた本年度はさらに職場主導で新人を教育支援していくことを強化していくため、新入社員導入時研修で実施した内容を上司につなぐ「上司支援ワークショップ」を期初に実施しました。

このように、育成責任者である上司が主導し、メンターを中心とした職場全体での育成への取組みを進めています。

上記メンター制度のみならず、社員一人ひとりが仕事経験を通じて成長していくため、必要な能力開発や、その一助となる支援を社内研修などOFF-JTで行い、職場と連携して効果的な研修実施を目指していきます。

伊藤ハムヒューマンサービス株式会社
採用・人材開発担当

田原 直子

※伊藤ハムヒューマンサービスでは伊藤ハムグループの教育研修を実施しています。



労働安全衛生

労働安全衛生方針

伊藤ハムグループは、すべての人が安全に安心して働ける職場環境を実現するため、労働安全衛生管理に取り組んでいます。

■ 労働安全衛生方針

1. 企業倫理規範に基づき、労働安全衛生の関係法令、社内規程・ルールを遵守し、従業員の安全と健康を確保します。
2. 労働安全衛生方針を周知し、従業員の協力の下、自主的な労働安全衛生活動の促進とPDCAによる継続的・継続的な職場の労働安全衛生管理の水準の向上に努めます。

3. リスクアセスメントにより職場に存在する危険有害要因の把握・評価を行い、リスクレベルに基づいたリスクの除去低減策を講じて、労働災害と健康障害の未然防止に努めます。
4. 従業員が労働安全衛生の高い意識を有して、労働安全衛生を優先した作業が行えるように、繰り返し労働安全衛生教育を行い、不安全行動やミスの撲滅に努めます。
5. ストレスチェック実施及び事後措置の徹底、メンタルヘルス不調者への対応とともに職場のコミュニケーションの活性化による心の健康づくりに努めます。
6. 構内協力会社との連携、情報交換を充分に行い、構内協力会社と一体となった総合的な労働安全衛生管理の構築に努めます。

安全衛生教育

新入社員の入社時集合研修では、安全に仕事をするための基本を身につけるために、「労働安全衛生の基本」「こころとからだの健康管理」の講義を行っています。

また、生産工場などでは、作業手順教育や労働災害同種災害防止教育など、安全衛生教育を繰り返し実施し、不安全行動の撲滅、従業員の安全衛生意識向上に努めています。

安全衛生監査

「労働安全衛生関係法令、社内ルールの遵守徹底」と、「労働災害や職業性疾病の発生防止」を目的として、CSR本部監査室が年度の監査計画に基づき、主要事業場の監査を実施し、遵法の指導と危険要因の改善に取り組んでいます。

健康管理

健康情報

お客様に信頼していただける仕事をするために心身の健康は必要不可欠なものです。

伊藤ハム健康保険組合では、2015年に策定したデータヘルス計画にもとづき、特定健診・特定保健指導の充実や人間ドック、がん検診の受診費用補助などの疾病予防事業、ウォーキングイベントなどの体育奨励事業を従業員とその家族を対象に推進しています。

メンタルヘルス

伊藤ハムグループ「心の健康づくり計画」に基づき、各人事労務担当部署からメンタルヘルス推進担当者を選任し、組織化することで、メンタルヘルス推進体制を確立・整備しています。また、「医療法人あけぼの会メンタルヘルスセンター」との提携によるEAP(従業員とその家族を対象とした従業員支援プログラム)の導入を進めています。不調者への対応だけでなく、職場のコミュニケーションの活性化や生産性の向上にも取り組んでいます。このような一連の取り組みによって、各地区・各部門と連携の下、問題の予防と対策の強化を図っています。

2014年10月24日には、関西福祉科学大学EAP研究所が主催する「こころの健康と経営戦略」フォーラムに企業の好事例として、当社人事総務部 人事課長 井田から当社の取り組みを紹介しました。



メンタルヘルスのポスター

メンタルヘルスセンターの声

いきいきと働ける気持ちの良い職場環境のために 声かけ・挨拶＝ハロー効果

私は伊藤ハム様の全国各地の工場を見学させていただきました。どの工場でも、出会う従業員の皆さんは気持ちよく挨拶をしてくださいました。その結果『こんな気持ち良い挨拶の歓迎をしてくれる職場は良い会社だな』⇒『こんな雰囲気の良い会社で作っている商品は美味しいに違いない』⇒『食べたい』となりました。このように、気持ちの良い挨拶は訪れる人に対して良い印象を与えます。その結果、会社全体や商品に対して良いイメージをもたらします。このようなイメージアップをもたらす現象を心理学ではハロー効果といいます。

伊藤ハム様では、職場の「声かけ・挨拶」が奨励されている点が素晴らしいと思います。職場の「声かけ・挨拶」はイメージアップだけでなく、コミュニケーションを促進して職場ストレスを軽減します。今後も、気持ちの良い職場環境のために、「声かけ・挨拶運動」を応援します。

医療法人あけぼの会 メンタルヘルスセンター

小牟禮(こむれ) 尚子



ダイバーシティの尊重

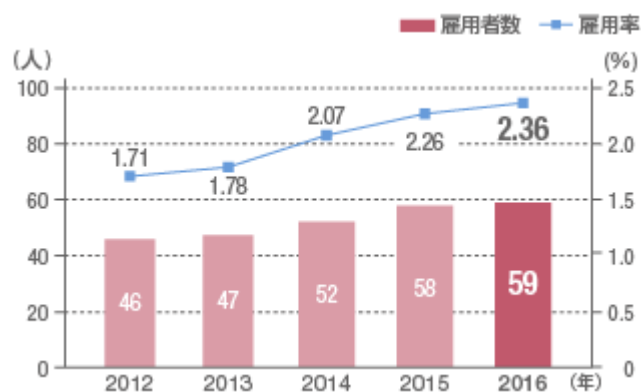
適用業務の拡大などによって、障がい者雇用率を向上

伊藤ハムの障がい者雇用率は2016年6月現在、2.36%です。1993年に当時の法定雇用率（1.6%）を上回って以来、雇用率を維持し、「兵庫県障害者雇用促進協会会長賞」「兵庫県知事賞」「日本障害者雇用促進協会会長賞」を受賞しました。近年は事務系派遣の直接雇用化やグループ会社再編などの影響から、一時的に法定雇用率を下回ることもありました。就労支援センターや支援学校、職業安定所などのご協力のもと、職場見学会を開催し、求職者を確保するとともに、適応業務の拡大を図ることで、雇用率の向上を果たしました。

併せて、当社は障がい者が安心して働ける職場づくりを推進しており、支援ワーカーやジョブコーチと連携して、障がい者の職場への定着を図っています。2015年12月9日には、兵庫県、兵庫労働局主催の「兵庫県 障害者差別解消・雇用支援セミナー」に参加し、当社の取り組みを紹介しました。

今後も障がい者雇用率の維持・向上を目指して、障がい者にとって働きやすい職場づくりに努めます。

■ 障がい者雇用実績



兵庫県 障害者差別解消・雇用支援セミナー

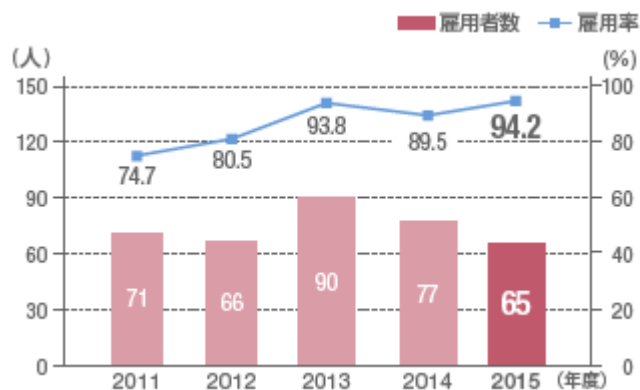
定年退職者の約9割を再雇用

定年退職後も働く意志があり、引き続き勤労者として社会に貢献したいと考えている従業員が積極的に働くことは、会社や社会にとっても大きなメリットという認識のもと、2006年に従来の「定年再雇用制度」を拡充。以来、正社員・非正社員ともに、定年を迎える1年前に本人の意志を確認して、最長65歳まで再雇用を継続しています。再雇用期間は1年ごとの契約とし、継続就業の意志確認は毎年行っています。勤務形態は従業員の希望をできるだけ汲み取り、勤務時間など柔軟に対応しています。

2015年度は、伊藤ハムでは定年退職者の約94.2%にあたる65名を、グループ全体では定年退職者の約86.3%にあたる82名を再雇用しました。

伊藤ハムではこの制度のほかに、60歳以上の人材の新規採用を進めるなど、少子高齢化の進展に対応した雇用を進めています。また2015年度から、これまで従事してきた業務と異なるキャリアを社内を選択することにより、65歳まで安定して働くことのできる制度を新たに導入しました。

■ 定年退職者再雇用実績

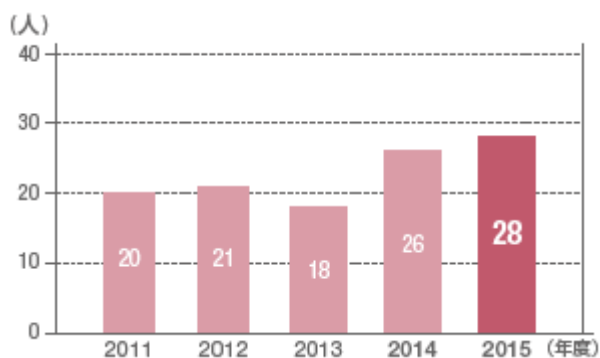


非正社員の中から評価基準を満たした人材を正社員へ登用

伊藤ハムグループは、非正社員の戦力化とモチベーションの維持・向上を図るべく、パートタイム労働法の改正に合わせて2009年度から、非正社員を正社員に登用する「正社員登用制度」を運用しています。この制度は、一定の評価基準を満たし、所属部門の推薦を受けた非正社員を対象に面談・試験を行い、正社員として登用処遇するものです。

さらに、非正社員における資格についても期待役割に応じ、時間給のパートナー社員を月給のエリア社員へ登用するなど正社員登用制度に限らず、優秀でやる気のある従業員の登用制度も運用しており、今後も従業員のモチベーション施策を進めていきたいと考えています。

■ 正社員登用者数推移





コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

また、今後もコンプライアンス意識を向上させる研修・教育の徹底と、積極的な情報開示を通して経営の透明性を高めることにより、コーポレートガバナンスの充実に努めてまいります。

```

graph TD
    SGM[株主総会] -- 選任/解任 --> BOB[取締役会]
    SGM -- 選任/解任 --> ID[監査役]
    SGM -- 選任/解任 --> A[会計監査人]
    BOB -- 報告 --> ID
    BOB -- 報告 --> A
    ID -- 監査 --> BOB
    ID -- 報告 --> A
    A -- 報告 --> ID
    A -- 選任・再任の決定  
会計監査相当性の判断 --> ID
    BOB -- 選任/解任  
監督 --> CEO[代表取締役]
    CEO -- 報告 --> BOB
    ID -- 監査 --> CEO
    CEO -- 業務執行報告 --> EO[執行役員]
    EO -- 報告 --> CEO
    EO -- 業務執行 --> BDM[各事業部門、子会社、関連会社]
    BDM -- 報告 --> EO
    BDM -- 計画/報告等 --> CSR[CSR本部]
    CSR -- 方針提示/監査 --> BDM
    CSR -- 指導 --> CC[コンプライアンス委員会]
    CC -- 報告 --> CSR
    CSR -- 監査室 --> CC
    CSR -- 品質保証部 --> CC
    CSR -- お客様相談室 --> CC
    CSR -- コンプライアンス推進室 --> CC
    CC -- 報告 --> CRPM[コンプライアンス責任者会議]
    CRPM -- 報告 --> A
  
```

企業倫理規範(コンプライアンスの原則)

健全で誠実な企業経営を行う上で守るべき考え方を「企業理念規範（コンプライアンスの原則）」として策定しています。

1. 公正な活動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神

伊藤ハムグループは、常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底

伊藤ハムグループは、事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンス等を通じて社内徹底を図ります。

4. 法令違反の早期是正と厳正対処

伊藤ハムグループは、業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。

コンプライアンス

コンプライアンス推進規程を整備し、社内ルールを明確化とその周知を図っています

コンプライアンス推進規程	コンプライアンスの実践やコンプライアンス推進体制などについて定めています。
社内通報規程	社内相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについて定めています。
個人情報取扱規程	個人情報の取得、保管、利用、廃棄のプロセスを定めています。
パワーハラスメント防止規程	パワーハラスメントの未然防止や発生した場合の対応等について規程化しています。全従業員への周知のため、別途ガイドラインを作成し配布しています。

従業員のコンプライアンスに関する相談に、4つの窓口で対応

従業員が違法行為、社内ルール違反や社会的良識からの逸脱に気づいた場合の対応として、まず、上司に報告することを基本としています。

しかし、それが難しく、従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として、コンプライアンス推進室の「社内相談窓口」など4つの窓口で相談に対応しています。また近年、職場での人間関係、コミュニケーションに関する相談が増えたことを受け、相談員の傾聴力研修を実施し、あわせて、従業員教育にコミュニケーションスキルの向上を目的とした講習を取り入れています。



コンプライアンスカード

コンプライアンス委員ミーティングを実施しています

「各職場の業務に根付いたコンプライアンスの推進と定着」を目的としたコンプライアンス委員制度を設け、伊藤ハムグループの全職場において、任命された276名（2016年6月現在）のコンプライアンス委員が活動しています。2015年度に引き続き、今期もコンプライアンス委員の意識の向上と知識の習得のために、年3回のエリア別集合ミーティングを開催しました。これらのミーティングでは、SNSに対する知識、下請法、インサイダー取引に関する法令知識、コミュニケーションのスキルアップのトレーニングをテーマとしたミーティングを行いました。

報告期間中に実施した定期ミーティングについて

開催頻度：年3回

（1回ごとの内訳は全国約15か所、延べ20回）

目的：委員の意識と知識向上のため

開催実績：約60回

主な議題：コミュニケーショントレーニング、法令知識の習得

コンプライアンス教育を延べ290回実施し、延べ9,202人が受講

全従業員を対象に、年1回以上のコンプライアンス講習を行っています。2015年度の全体テーマは、コミュニケーションのスキルアップを目的に、『職場で気を付けるべき、「聴く、見る、話す」能力の向上』をテーマとした講習を開催し、チームとして業務を遂行するために必要なことやコンプライアンスの定着が大前提であることを再確認しました。さらに、管理職、新入社員といった階層別の研修や、業務に根差した法令研修も実施しました。これらを含めて、2015年度中にコンプライアンス教育を延べ290回行い、延べ9,202名が受講しました。

2016年度は、職場のコンプライアンス意識の醸成、チームワーク強化のために、「チームワークに必要なコミュニケーション」をテーマとして教育を実施する予定です。



コンプライアンス勉強会

ハンドブックの配布、イントラネットなどを通じて社内周知を推進

伊藤ハムグループでは、従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させ、日常業務の中で実践につなげるために、コンプライアンスの周知・啓発活動を展開しています。

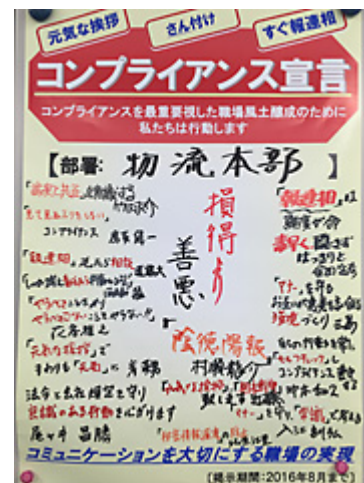
全従業員に携帯しやすいハンドブックの配布、社内報による告知を実施しているほか、イントラネットでは、コンプライアンスに関する情報を定期的に更新し、社内における周知を図っています。また、毎年9月1日をグループ全体の「コンプライアンスデー」と定め、所属部門長、各職場長などがコンプライアンスに関する講話を行うほか、部門による寄せ書きの作成や、ポスター掲示を実施しています。



コンプライアンスハンドブック



社内イントラネット（コンプライアンスページ）



寄せ書きポスター

「コンプライアンス意識調査」の結果を活動方針・計画に反映

コンプライアンス・マインドの浸透状況を確認し、問題点の把握と改善の推進活動に役立てることを目的に、グループ全従業員を対象とした「コンプライアンス意識調査」を年1回、実施しています。2015年9月に実施した「コンプライアンス意識調査」では正社員91.8%、準社員73.3%の回答があり、過去最高の回答率となりました。この調査の結果は、社長が議長である、グループのコンプライアンス責任者会議全体会で報告され、次年度のグループコンプライアンス方針策定の重要な要素としています。又この調査結果は、毎回、社内イントラネットに掲示しているほか、各職場で上司から部下へフィードバックしています。2015年度の調査結果から、コンプライアンス委員の職場での定着が進んだこと、職場の「チームワーク意識」に弱みが見えることが分かりました。この結果を2016年度のコンプライアンス方針・取組項目・教育活動に反映しました。

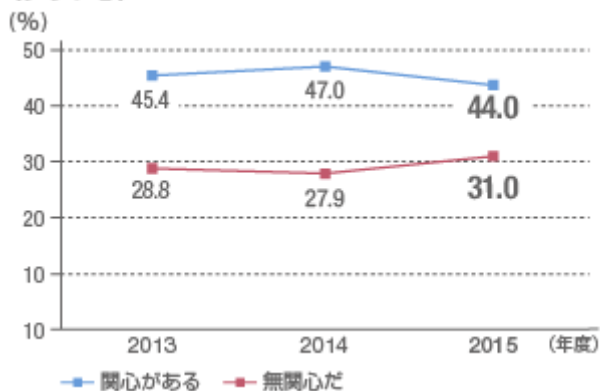
■ 第14回コンプライアンス意識調査結果（抜粋）

目的：コンプライアンス・マインドの浸透状況を確認し、問題点の把握と改善の推進活動に役立てるため

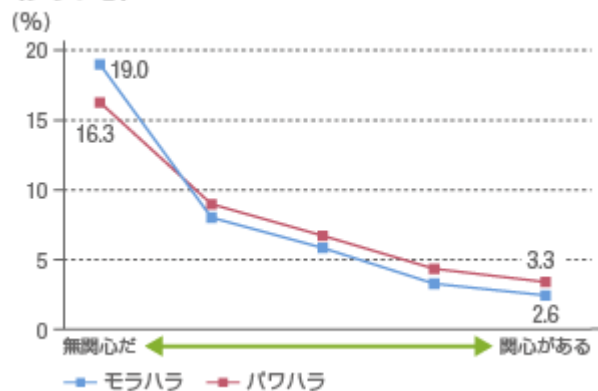
期間：2015年9月1日～2015年9月25日

対象：伊藤ハムグループに所属する全従業員

〈グラフ①〉



〈グラフ②〉



グラフ①は、『Q.1 あなたの職場のメンバーは、自分の業務以外には無関心である』という設問に対する回答の3年間の推移を表したものです。「自分の業務以外には無関心である」と回答した割合が前年に比べて増えていることから、「職場＝チーム」という認識の希薄化、一体感の後退が推察されました。

また、Q.1の回答者に対して、『Q.2 現在、あなたが業務を行う上で生じている問題がありますか?』と質問した結果、グラフ②のようなハラスメントとの関係性が浮かび上がりました。具体的には、Q.1の「はい（自分の業務以外に無関心だ）」という回答と、Q.2の「モラハラ・パワハラがある」という回答に強い関係性があることが分かりました。

したがって、『「職場＝チーム」という認識が薄れている職場ほど、ハラスメントの問題が潜んでおり、コミュニケーション不足に陥っている可能性がある』と推察しました。今期は、このような意識調査の結果を受け、従業員同士のチームワークを高め、働きやすい職場環境をつくることを目的に、「職場のコミュニケーション」の講習を行う予定です。

動物愛護の取り組み

食肉加工業を生業とする企業として、家畜の生命をいただいているということを従業員一同が胸に刻み、動物愛護に取り組んでいます。

当社グループにおいて直接家畜を取り扱う部署は、家畜の取り扱いを適切なものにするために規程を設け、家畜にできるだけストレスをかけないように運用しています。また、毎年、「畜魂祭」を催すとともに、各地で開催される同様の行事に積極的に参加することで、家畜に対する敬意と感謝を表しています。

リスクマネジメント

基本的な考え方

1. 伊藤ハムグループは、リスク管理体制の基礎として「リスク管理基本規程」を定め、同規程に基づいて、個々のリスクについての責任者を決定し、適切なリスク管理体制を構築・整備しています。
2. 著しい損害が生じるおそれのある重大な危機が発生した場合には、社長を委員長とする危機管理委員会を設置し、必要に応じて外部アドバイザリーチームを組織して迅速な対応を行い、損害の拡大を防止するとともに、これを最小限に止める体制を整えることとしています。

リスクマネジメントの取り組み

1. リスクマネジメントの取り組みの一環として、事業部門ごとに業務や取引に関連する法令を抽出し、その遵守状況について年1回モニタリング活動を行う「リーガルリスクマネジメントシステム」を構築・運用し、リスクの把握および低減化に努めています。
2. 自然災害発生時におけるBCP（事業継続計画）については、「南海トラフ巨大地震」を想定した計画を策定し、その訓練を実施しています。また、BCPについては適宜見直しを図っていきます。



災害対策本部 訓練風景



情報セキュリティ

ビデオ講習などを通じて、情報セキュリティを強化

従業員がITを利用する際のルールを「伊藤ハムグループIT利用規則」として定め、ITの効果的活用を目指すとともに、法令・社内の諸規程および社会倫理に反する利用や、お客様や社会全般に不利益を与えるような利用を厳しく禁じています。併せて、情報資産のセキュリティ確保および個人情報の保護といった社会的責任を果たすべく、インターネットに潜むサイバー攻撃などの脅威やモバイル機器の取扱いに伴うトラブルなど、情報資産にかかわるリスクを継続的に評価しています。

さらに近年、ソーシャルメディアの利用に関連したトラブルが社会問題化していることを鑑み、2012年度から「伊藤ハムグループ ソーシャルメディアの利用に関するガイドライン」を策定し、運用しています。

このほか、責任者クラス、関連部署の従業員を対象とした情報セキュリティ教育にビデオ講習を取り入れるなど、従業員に情報資産の大切さを身近に感じてもらえるような工夫も取り入れながら、情報セキュリティの維持・強化に努めています。



環境

伊藤ハムグループ環境基本方針

環境宣言

伊藤ハムグループは創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められている現在、私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく環境にかかわる基本理念及び行動指針を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

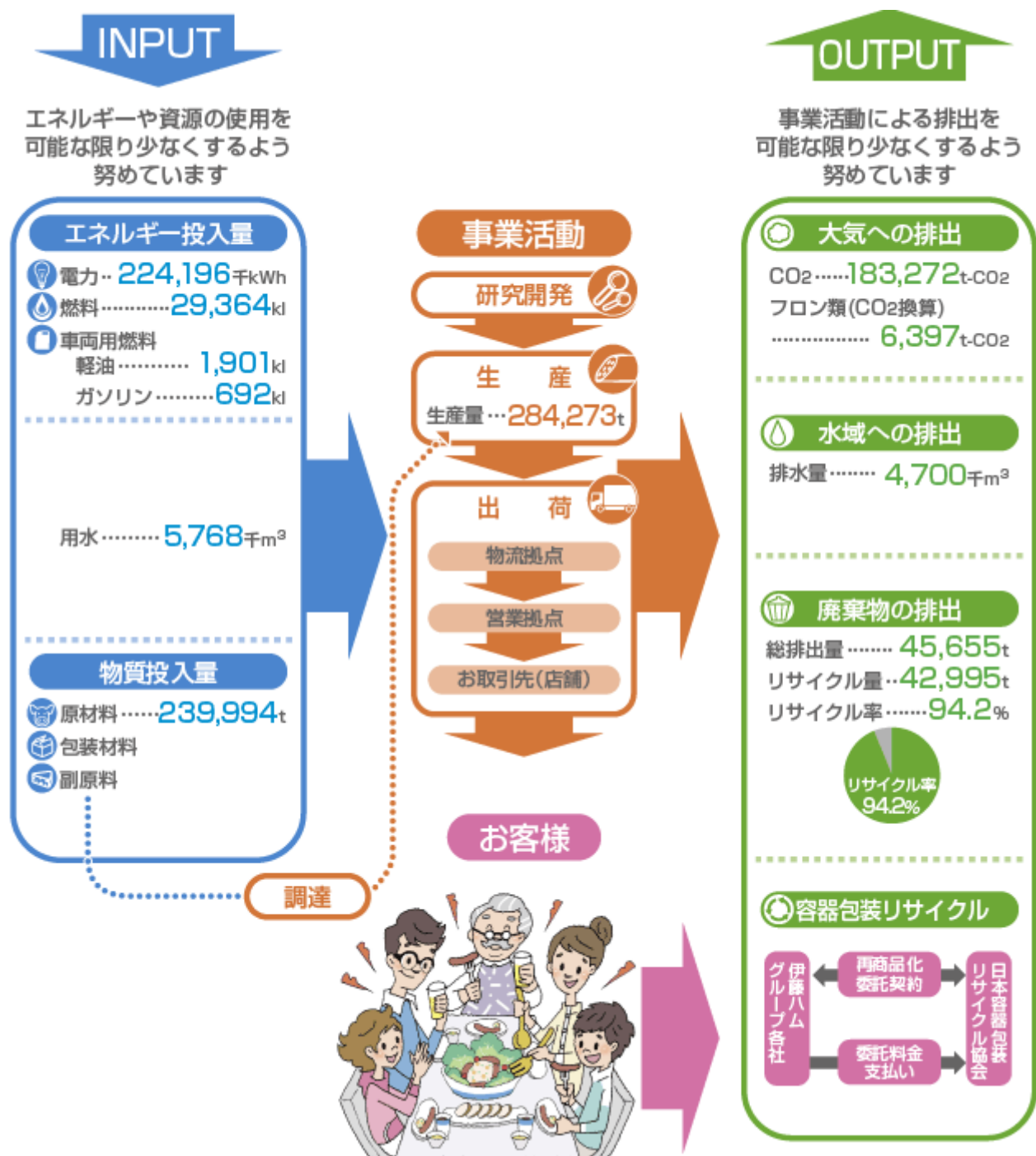
環境基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

環境行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期的に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に伊藤ハムグループ環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 森林や河川などの自然環境保護活動を推進し生物多様性の保全に努めます。
9. 伊藤ハムグループ環境基本方針及び環境保全と活動結果について、CSR報告書により情報開示します。

環境負荷の全体像 (対象期間:2015年4月1日~2016年3月31日)



対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部門 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部門 ■浅草ハム(株)関東工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、仙台、札幌各パックセンター ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)

環境目標

第5次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

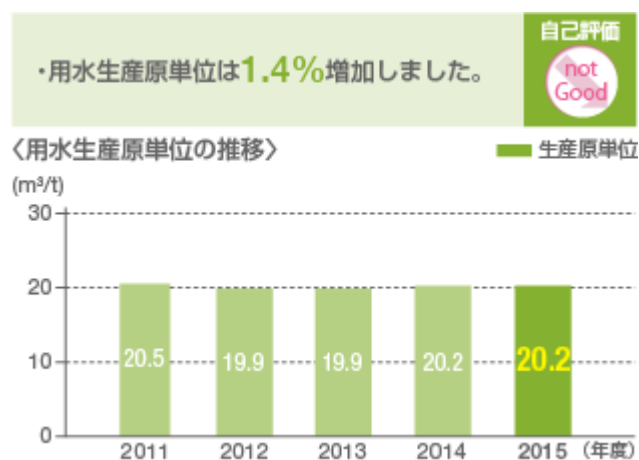
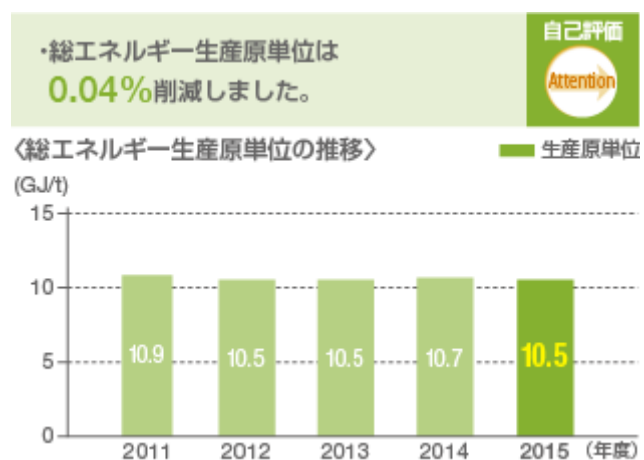
2015年度は、冷凍機の更新、変圧器の更新、蒸気スチームトラップの点検、交換の推進、冷却水の再利用などを実施し、次の通りの結果となりました。

■ 第5次中期環境目標

項 目		単 位	基準年度 (2012年度)	2015年度 目標値		2015年度 結果		自己 評価
				数値	増減	数値	増減	
①	総エネルギー使用量削減	生産原単位 (GJ/t)	10.5	10.2	▲3%	10.5	▲0.04%	Attention
	用水使用量削減	生産原単位 (m³/t)	19.9	19.3	▲3%	20.2	1.4%	not Good
②	廃棄物排出量削減	生産原単位 (kg/t)	171	165	▲3%	156	▲8.7%	Good
	廃棄物のリサイクル推進	リサイクル率 (%)	95.2	98.0	2.8 ポイント	95.6	0.4 ポイント	Attention
③	CO2排出量削減	生産原単位 (kg-CO2/t)	599	581	▲3%	565	▲5.6%	Good
④	事務用品のグリーン購入推進	購入率 (%) (金額ベース)	90.3	98.0	7.7 ポイント	80.3	▲10.0 ポイント	not Good
	事務機器のグリーン購入推進	購入率 (%) (数量ベース)	100.0	100.0	0.0 ポイント	98.2	▲1.8 ポイント	Attention

※ ①～③は生産原単位 総エネルギー：熱量換算（購入電力＋燃料＋購入蒸気）

1. 省エネルギー、省資源の推進

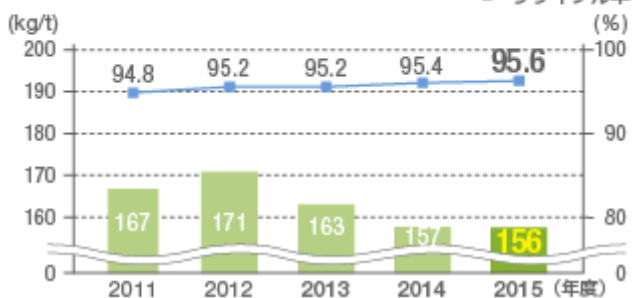


2. 廃棄物の削減とリサイクルの推進

- ・廃棄物生産原単位は**8.7%**削減。
- ・リサイクル率は**0.4ポイント**上がりました。



〈廃棄物生産原単位とリサイクル率の推移〉

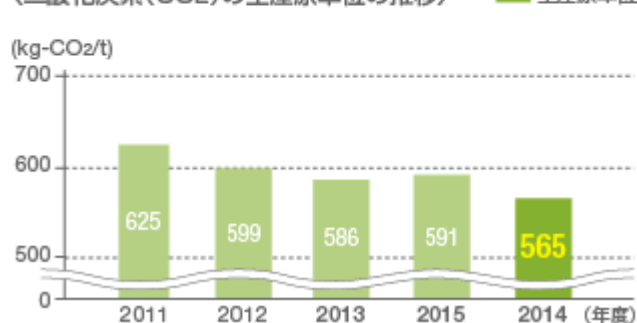


3. 温室効果ガスの排出削減

- ・二酸化炭素(CO₂)生産原単位は**5.6%**削減しました。



〈二酸化炭素(CO₂)の生産原単位の推移〉

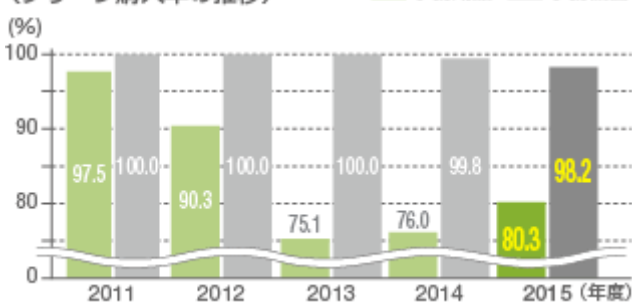


4. グリーン購入の推進

- ・事務用品のグリーン購入率は**10.0ポイント**下がりました。
- ・事務機器は**1.8ポイント**下がりました。



〈グリーン購入率の推移〉



〈自己評価〉



2015年度の実績が目標値の100%以上に改善。



2015年度の実績が基準年度（2012年度）比でほぼ横ばい。継続して取り組みを進めます。



2015年度の実績が基準年度（2012年度）を下回りました。
継続して、より一層取り組みを進めます。

対象範囲 1、2、3

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、仙台、札幌各パックセンター ■沖縄フレッシュパック(株)、(株)藤栄

対象範囲 4

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場

第6次中期環境目標

2016年度～2018年度まで、以下の項目1～4は生産原単位で基準年度（2015年度）比年平均1%削減を目指します。項目5は各年度基準年度以上を目指します。

項目		単位	2016年度	2017年度	2018年度
1	総エネルギー使用量削減	GJ/t	基準年度比年平均▲1%		
2	用水使用量削減	m ³ /t	基準年度比年平均▲1%		
3	CO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂ /t	基準年度比年平均▲1%		
4	廃棄物排出量削減	Kg/t	基準年度比年平均▲1%		
5	廃棄物のリサイクル推進	%	2015年度以上		

環境マネジメント

環境保全活動の効果を高めるために、環境マネジメントシステムを構築・運用しています

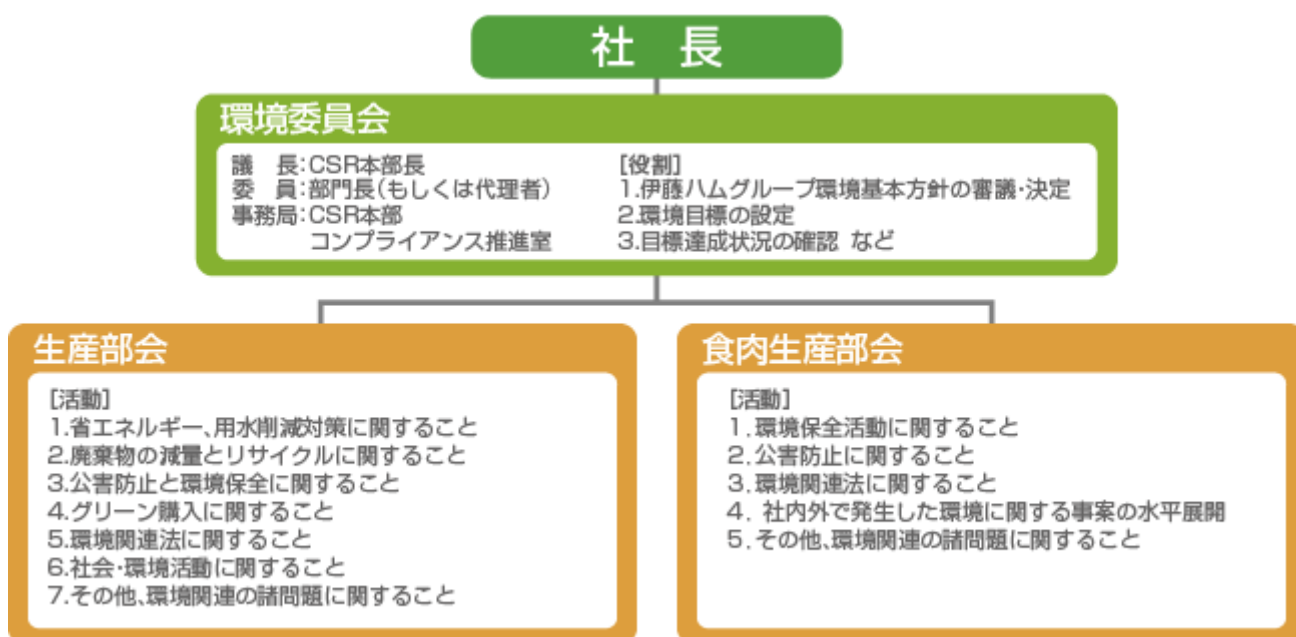
伊藤ハムグループは、環境保全活動の効果を高め、持続可能な社会の構築に貢献していくために、主要な生産拠点において、環境マネジメントシステムを構築・運用し、環境保全活動を推進しています。

環境課題へ迅速かつ円滑に対応するために、環境管理体制を構築しています

環境マネジメントを推進し、省エネルギーや省資源、廃棄物の資源リサイクルなど、環境保全に関わるさまざまな課題に対して迅速かつ円滑に対応するために、環境管理体制を構築しています。

また、伊藤ハムグループ環境基本方針や目標設定などの全社的な事項は「環境委員会」で審議・決定しています。

■ 環境マネジメント組織体制



活動のさらなるレベルアップを図るために環境監査を実施するとともに法令遵守を行っています

事業所内で実施する内部環境監査はもちろん、環境汚染や環境事故を防止し、環境保全活動のさらなるレベルアップを図るために、CSR本部監査室が、年度の計画に基づいて主要事業所の監査を実施しています。

2015年度は、合計79事業所の監査を実施しました。

また、事業所ごとにも環境監査を実施しています。

環境関連法や、環境保全協定などで定められた規制値を守るとともに、指摘事項には迅速に対処し是正を図ることで、法令の遵守を徹底しています。



CSR本部監査室による環境監査

- ▶大気汚染防止法
- ▶水質汚濁防止法
- ▶特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- ▶廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
- ▶食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)
- ▶資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)
- ▶容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)
- ▶エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネルギー法)
- ▶フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)
- ▶地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策推進法)
- ▶自治体との環境保全協定 など

グリーン購入

「グリーン購入基本方針」と「グリーン購入ガイドライン」を制定し、環境に配慮した物品の優先的な購入に取り組んでいます。

環境管理に関するお問い合わせに迅速かつ誠実な対応を心がけるとともに、環境事故には迅速に対応しています

環境管理に関するお問い合わせに対して、その都度、迅速かつ誠実な対応を心がけています。

対応策実施後はその効果を確認し、お問い合わせをいただいた方に報告し、ご了解をいただいています。2015年度は次のようなお問い合わせをいただきました。

■ お問い合わせ内容と対応策の事例（2015年度）

内 容		対応策
騒音	月曜および木曜の朝方20分ほど、工場の方から「カンカン」と音がする。	原因は、休日明けのボイラー立ち上げ時の「ウォーターハンマー現象」による異音と判明しました。排水口増設工事を施工し、音の発生を低減しました。

緊急時の対応策

汚水や重油、薬品の漏洩など、環境汚染を引き起こすような突発的な事故を想定し、その影響の拡散を防ぎ、汚染を最小限にするとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に訓練を実施しています。

万一事故が発生したときには、社内間の連絡と必要に応じて行政機関や地域住民への連絡を円滑に行うように規程を定め運用しています。



薬品の漏洩対応訓練〔伊藤ハムウエスト(株)九州工場〕

環境情報開示

「環境保全活動をはじめ、CSR活動について、社内外へ情報発信することは企業の果たすべき責任である」という認識のもと、ホームページを通じて積極的に情報を開示しています。

2000年から毎年、報告書を発行してCSR活動に関する情報を開示しています

環境保全活動をはじめ、伊藤ハムグループのCSR活動をご理解いただくために、2000年から毎年、CSR報告書を発行※しています。環境負荷の低減を考慮して2012年に冊子を廃止し、ホームページで情報を開示しています。

また、ホームページには、CSR報告書に関するご意見、ご感想などを投稿いただけるように、専用フォームを設けています。

※2000年はエコレポート、2001年～2004年は環境報告書、2005年～2007年は社会・環境報告書、2008年よりCSR報告書として発行。



「CSRの取り組み」ホームページ

従業員教育・地域とのコミュニケーション

従業員一人ひとりの環境保全意識を高め、継続的に環境保全に取り組む企業風土を醸成するために、環境教育や意識啓発活動を実施しています。

また、教育機関等からの要望に応じて当社の従業員を講師として派遣する「食と環境の出前授業」を実施し、地域の皆様との交流を深めています。



「食と環境の出前授業」
(近鉄百貨店上本町店)



「食と環境の出前授業」
(三木市立市民活動センター)

環境負荷低減の取り組み

伊藤ハムグループでは、電力・燃料・用水の使用量や二酸化炭素・廃棄物の排出量を削減するために、さまざまな環境負荷低減の取り組みを実施しています。2015年度に実施した主な取り組みは次のとおりです。

生産事業所の取り組み

より効率の良い機器への更新などで省エネルギーおよび二酸化炭素排出量削減を推進しています。

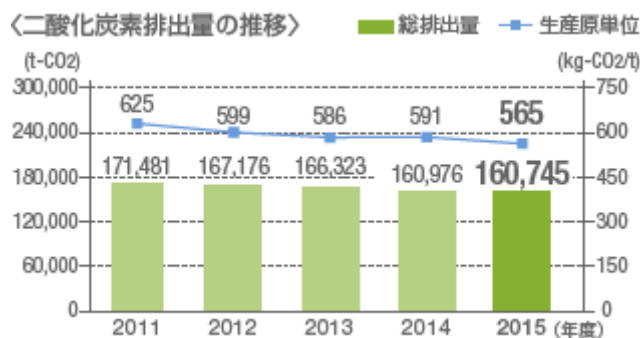
- 効率の良い冷凍機に更新しました。
- 効率の良い変圧器に更新しました。
- L E D照明への更新を進めました。
- 蒸気スチームトラップの点検、交換を進めました。
- 夏期、工場屋根や室外機に散水／ルーフシェード（日よけシート）の設置などによって、設備全体の温度を下げ、冷房の負荷を低減しました。
- 蒸気配管に保温ジャケットを取り付けました。



効率の良い冷凍機（豊橋工場）



効率の良い変圧器（伊藤ハムデイリー(株)東北工場）



冷却水や蒸気ドレン水を再利用し、用水使用量を削減しています

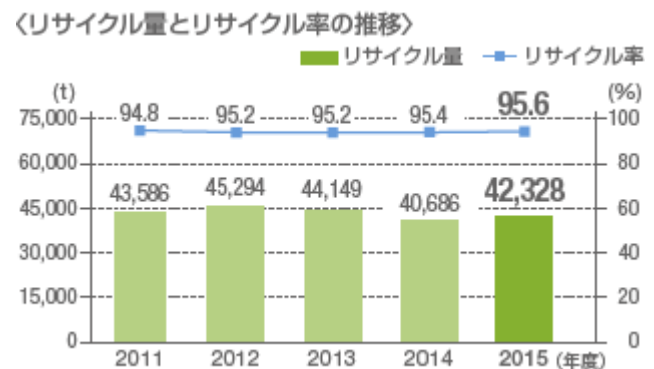
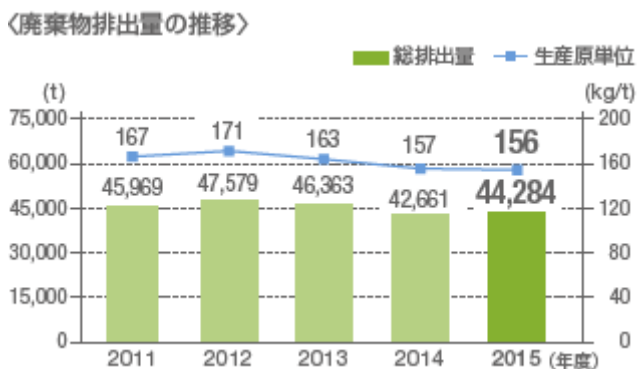
- 冷却水を再利用しました。
- 蒸気ドレン水を回収して、ボイラー用水に再利用しました。



蒸気ドレン水貯水タンク（東京工場）

廃棄物の発生抑制、減容を推進するとともに、リサイクル率を高めています

- 原料肉の包装で使用されていたポリシートを廃棄する際に、水切りを実施しました。
- 排水に流していた脂分の除去に努め、廃水処理設備の負荷を低減し、汚泥を削減しました。
- 廃ポリシートをマテリアルリサイクルしました。



生産事業所対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場 ■IHミートパッカー(株)名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、仙台、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュバック(株) ■(株)藤栄

事務所・営業所・物流センターの取り組み

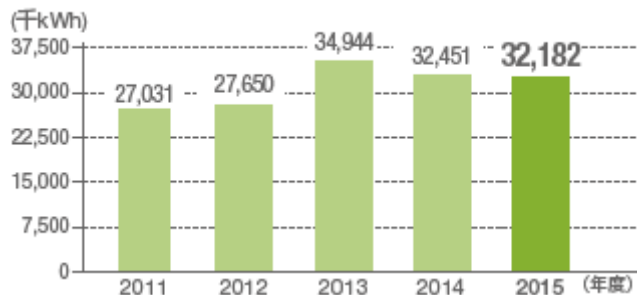
クールビズ、ウォームビズを実施、輸送効率の向上などにより、電力・燃料使用量の削減に努めています

- クールビズ、ウォームビズを実施、夏場は室温が28℃、冬場は20℃となるように空調機の温度設定を調整し、節電に取り組みました。
- LED照明への切り替えを進めました。
- 積み合わせ輸送・混送便の利用、輸送量に応じた適正車種の選択、輸送ルートの見直しなどで、輸送効率を向上させました。
- 保有車両の低公害車（低燃費、低排出ガス自動車、アイドリングストップ機能搭載車、ハイブリッド車など）への転換、台数の低減に努めました。

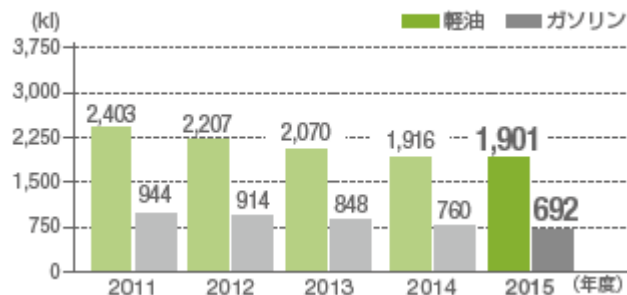


クールビズポスター

＜電力使用量の推移＞



＜車輛燃料(軽油・ガソリン)使用量の推移＞



事務所・営業所・物流センター対象範囲

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所

■伊藤ハムデイリー(株)営業部各営業所 ■伊藤ハムウエスト(株)営業部各営業所 ■伊藤ハム販売(株)各営業所 ■伊藤ハムミート販売東(株)各営業所 ■伊藤ハムミート販売西(株)各営業所 ■アイエイチロジスティクスサービス(株)各営業所および各センター

「兵庫県環境にやさしい事業者賞」を受賞

伊藤ハムは、第24回「兵庫県環境にやさしい事業者賞」を受賞しました。2015年6月3日(水)兵庫県公館大会議室で開催された「地球と共生・環境の集い2015」において、表彰式が行われ、兵庫県知事より表彰状及び盾が授与されました。

これは、西宮工場はじめ兵庫県内事業場の環境保全活動や「こうべ森の学校」「クリーンアップ in 甲子園浜」等の社会貢献活動が、環境にやさしく、環境や資源を大切にした取り組みであると評価されたものです。



表彰式(左:井戸兵庫県知事、右:西宮工場・平嶋工場長)



表彰状



盾

環境会計

2001年度より主要生産工場の環境関連施設や環境に関わる取り組みに投入したコスト、投入コストに伴う環境保全効果を集計し、環境経営に利用しています。前期との比較を容易にするため、前期実績と当期実績および増減値を記載しています。

2015年度環境会計の分析

2015年度は、冷凍機の更新、蒸気スチームトラップの更新、LED照明への切り替えなどの投資を行いました。また、廃棄物発生量の増加にともない、資源循環コストが増加したことなどによって、環境保全コストの費用額は昨年より増加しました。

環境関連施設の改善、維持管理に関しては、今後も内容を精査しながら対策を進め、効果的な投資を行っていきます。

■ 環境保全コスト

(単位：千円)

分類	主な取り組み内容	投資額			費用額		
		前期	当期	増減	前期	当期	増減
事業エリア内コスト		259,077	365,484	106,407	998,788	1,123,209	124,421
公害防止コスト	環境関連施設の改善、維持管理	34,150	54,000	19,850	695,342	739,134	43,792
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	184,153	270,550	86,397	36,371	42,508	6,137
資源循環コスト	廃棄物のリサイクル及び処理処分費用	40,774	40,934	160	267,075	341,567	74,492
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託料等	0	0	0	130,688	115,007	▲ 15,681
管理活動コスト	EMSの構築、環境保全に係る人件費等	0	0	0	12,084	54,196	42,112
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	緑化・その他環境活動費用	0	0	0	6,912	7,044	132
環境損傷コスト	燃料使用にともなう汚染賦課金	0	0	0	998	1,000	2
合 計		259,077	365,484	106,407	1,149,470	1,300,456	150,986

■ 環境保全効果

効果の内容	環境パフォーマンス指標 (単位)	前期	当期	原単位調整効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (GJ)	2,269,450	2,350,058	96,409
	電力エネルギー投入量 (GJ)	1,335,861	1,390,137	49,920
	その他燃料投入量 (GJ)	933,590	959,921	46,489
	用水の投入量 (千m ³)	3,909	4,056	157
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	120,047	121,306	8,105
	廃棄物総排出量 (t)	21,563	23,130	116
	総排水量 (千m ³)	3,111	3,210	144

* 指標の値 原単位調整効果：生産原単位を加味した削減効果
 【前期投入量（排出量）×（当期生産量／前期生産量）－当期投入量（排出量）】
 当期生産量／前期生産量＝1.078

* エネルギー投入量は、購入電力、燃料を熱量換算した値（GJ）

■ 環境保全対策にともなう経済効果

(単位：千円)

効果の内容		総金額	原単位調整金額
収益	廃棄物の有価売却による収益	111,224	119,900
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減（電力・燃料）	547,800	872,743
	用水に係る費用の削減	1,986	32,020
	廃棄物処理費の削減	▲ 42,248	▲ 23,079

＊指標の値 収益：当期収益
 費用削減：前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】
 原単位調整金額：生産原単位を加味した収益【当期収益×（当期生産量／前期生産量）】
 費用削減・生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×（当期生産量／前期生産量）－当期費用】
 当期生産量／前期生産量＝1.078

■ 集計方法、集計期間、集計範囲

1. 集計方法

- ① 投資額および減価償却費は、100%環境目的のもののほか、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。
- ② 環境保全効果については原単位調整効果、経済効果については、効果の総金額と原単位調整金額の両方で集計しました。
- ③ 公表フォーマットは「環境会計ガイドライン（2005年版）」を参考にしました。

2. 集計期間

2015年4月1日～2016年3月31日

3. 集計範囲

伊藤ハム(株)（神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手各工場）

伊藤ハムデイリー(株)（東北、小樽、北陸各工場）

伊藤ハムウエスト(株)九州工場

環境データ

■ 2015年度 緊急時の対応訓練

事業所名		訓練の内容	参加者数（人）
伊藤ハム(株)	六甲工場	汚泥・汚水の漏洩対応訓練	2
		フロンガス類の漏洩対応訓練	5
	西宮工場	汚水・薬品の漏洩対応訓練	5
		廃油の漏洩対応訓練	12
		フロンガスの漏洩対応訓練	5
	豊橋工場	重油の漏洩対応訓練	8
		フロンガスの漏洩対応訓練	8
	東京工場	汚水・薬品の漏洩対応訓練	4
		廃油の漏洩対応訓練	4
伊藤ハムデイリー(株)	東北工場	汚泥・汚水・薬品の漏洩対応訓練	3
		重油の漏洩対応訓練	5
		フロンガスの漏洩対応訓練	5
	小樽工場	汚水の漏洩対応訓練	3
		フロンガスの漏洩対応訓練	3
	北陸工場	汚泥・重油の漏洩対応訓練	2
		フロンガスの漏洩対応訓練	2
伊藤ハムウエスト(株)	九州工場	薬品の漏洩対応訓練	3
		不完全処理水の流出防止対応訓練	3
		フロンガスの漏洩対応訓練	7
サンキョーミート(株)	有明ミート工場	汚泥の漏洩対応訓練	6
	霧島ミート工場	薬品の漏洩対応訓練	4
沖縄フレッシュパック(株)		フロンガスの漏洩対応訓練	4

■ ISO14001認証取得事業所

サイト名		認証機関	登録年月
伊藤ハム（株）	西宮工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年2月
	東京工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年9月
	豊橋工場	日本環境認証機構（JACO）	2000年11月
	六甲工場	日本環境認証機構（JACO）	2001年10月
伊藤ハムデイリー（株）	東北工場	日本環境認証機構（JACO）	2004年5月
	小樽工場	日本環境認証機構（JACO）	2006年4月
	北陸工場	日本環境認証機構（JACO）	2006年8月
伊藤ハムウエスト（株）	九州工場	日本環境認証機構（JACO）	2002年2月
サンキョーミート（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2002年3月
IHミートパッカー（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年3月
IHミートソリューション（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年3月
沖縄フレッシュパック（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年2月
（株）藤栄		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2010年2月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

※伊藤ハム(株)西宮、東京、豊橋、六甲各工場、伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、伊藤ハムウエスト(株)九州工場は、2016年度中に、順次ISO14001の認証を返上していきますが、一方で、これらの工場を管轄する生産本部が主体となって、エコアクション21認証取得に向けた取り組みを進めています（2017年3月認証取得予定）。

■ ISO22000認証取得事業所

サイト名		認証機関	登録年月
サンキョーミート（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2005年12月
IHミートパッカー（株）	宮城ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2006年3月
	東京ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2007年2月
	十和田ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年1月
	名古屋ミートセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年3月
IHミートソリューション（株）	神戸パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年3月
	札幌パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年12月
	九州パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年12月
	仙台パックセンター	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2012年3月
沖縄フレッシュパック（株）		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年11月
（株）藤栄		日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	2008年12月
筑紫ファクトリー（株）北九州工場		BSIマネジメントシステム・ジャパン	2009年3月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

■ ISO9001認証取得事業所

サイト名	認証機関	登録年月
サンキョーミート（株）	日本海事検定キューエイ（NKKKQA）	1999年12月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

■エネルギー等使用量の推移

		合計				
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
電力	総量（千kWh）	219,980	216,337	222,180	218,833	224,196
燃料 ※1	総量（kl）	33,043	32,079	32,909	31,518	31,939
総エネルギー ※2	総量（GJ）	3,392,940	3,332,102	3,424,827	3,345,129	3,412,349
用水	総量（千m ³ ）	5,661	5,582	5,684	5,544	5,768
		伊藤ハム				
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
電力	総量（千kWh）	110,024	107,730	103,368	103,392	107,539
燃料 ※1	総量（kl）	16,101	15,894	16,208	15,284	15,776
総エネルギー ※2	総量（GJ）	1,635,605	1,600,300	1,590,873	1,558,541	1,616,386
用水	総量（千m ³ ）	2,868	2,743	2,761	2,655	2,773
		関連会社				
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
電力	総量（千kWh）	109,956	108,607	118,812	115,441	116,657
燃料 ※1	総量（kl）	16,942	16,185	16,701	16,234	16,163
総エネルギー ※2	総量（GJ）	1,757,335	1,731,802	1,833,954	1,786,588	1,795,963
用水	総量（千m ³ ）	2,793	2,839	2,923	2,890	2,995

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算（購入電力＋燃料＋購入蒸気）

対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2011年度）、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部門 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部門 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場（2011～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター（ただし関西ミートセンターは2011～2012年度） ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックセンター（ただし茨城、青森各パックセンターは2011年度） ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)

■ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場のエネルギー等使用量の推移

		合計				
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
電力	総量 (千kWh)	151,503	148,093	145,719	144,350	150,164
	生産原単位 (kWh/t)	1,157	1,153	1,105	1,180	1,140
燃料 ※1	総量 (k l)	24,802	24,790	25,814	24,903	25,585
	生産原単位 (l/t)	189	193	196	204	194
総エネルギー ※2	総量 (G J)	2,412,887	2,355,457	2,373,494	2,328,186	2,408,972
	生産原単位 (G J/t)	18	18	18	19	18
用水	総量 (千m ³)	4,184	4,063	4,151	3,996	4,146
	生産原単位 (m ³ /t)	32	32	32	33	32
		伊藤ハム				
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
電力	総量 (千kWh)	103,026	101,627	99,780	99,809	104,068
	生産原単位 (kWh/t)	1,113	1,127	1,090	1,212	1,169
燃料 ※1	総量 (k l)	16,303	15,805	16,126	15,206	15,693
	生産原単位 (l/t)	176	175	176	185	176
総エネルギー ※2	総量 (G J)	1,589,603	1,555,416	1,552,156	1,519,991	1,578,800
	生産原単位 (G J/t)	18	17	17	19	18
用水	総量 (千m ³)	2,850	2,727	2,745	2,639	2,756
	生産原単位 (m ³ /t)	31	30	30	32	31
		関連会社				
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
電力	総量 (千kWh)	48,477	46,466	45,939	44,541	46,096
	生産原単位 (kWh/t)	1,262	1,215	1,141	1,114	1,079
燃料 ※1	総量 (k l)	8,499	8,985	9,058	9,697	9,892
	生産原単位 (l/t)	221	235	241	242	232
総エネルギー ※2	総量 (G J)	823,284	800,041	821,338	808,195	830,172
	生産原単位 (G J/t)	21	21	20	20	19
用水	総量 (千m ³)	1,334	1,336	1,406	1,357	1,390
	生産原単位 (m ³ /t)	35	35	35	34	33

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算（購入電力＋燃料＋購入蒸気）

対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2011年度） ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場（2011～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場

■二酸化炭素（CO₂）の排出量の推移

	合計				
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
排出量（t-CO ₂ ）	195,095	189,699	191,639	185,435	183,272
	伊藤ハム				
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
排出量（t-CO ₂ ）	93,507	88,739	79,001	76,167	76,821
	関連会社				
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
排出量（t-CO ₂ ）	101,587	100,960	112,638	109,268	106,451

対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2011年度）、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部門 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部門 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場（2011～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山工場 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター（ただし関西ミートセンターは2011～2012年度） ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックスセンター（ただし茨城、青森各パックスセンターは2011年度） ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)

■ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場の二酸化炭素（CO₂）排出量の推移

	合計				
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
排出量（t-CO ₂ ）	136,898	133,683	127,821	123,618	124,775
生産原単位（kg-CO ₂ /t）	1,045	1,041	970	1,010	947
	伊藤ハム				
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
排出量（t-CO ₂ ）	88,700	86,719	77,262	74,293	75,063
生産原単位（kg-CO ₂ /t）	958	962	844	902	843
	関連会社				
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
排出量（t-CO ₂ ）	48,198	46,964	50,559	49,325	49,712
生産原単位（kg-CO ₂ /t）	1,255	1,228	1,255	1,233	1,164

対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2011年度） ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場（2011～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場

■ グリーン購入の推移

対象品目			グリーン購入の割合（％）				
			2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
事務用品 (金額ベース)	文書類	筆記具、ファイル等	97.5	97.8	95.7	97.1	93.5
	紙類	コピー用紙、コンピューター用紙など	97.5	87.1	69.8	70.5	76.9
	合計		97.5	90.3	75.1	76.0	80.3
事務機器 (数量ベース)	ＯＡ機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリなど	100.0	100.0	100.0	100.0	97.1
	オフィス家具類	事務用机、椅子、ＯＡテーブルなど	100.0	100.0	100.0	98.3	98.3
	合計		100.0	100.0	100.0	99.8	98.2
その他	照明器具類	ランプ、蛍光灯器具など	84.2	81.4	88.2	89.0	85.9

対象範囲

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、取手、船橋各工場（ただし船橋工場は2011年度） ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場（ただし2011～2013年度） ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場



神戸工場



所在地

〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋町西6-20-1

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力 (kWh/t)	1,223	1,189	1,275	1,433	1,480
燃料 (l/t)	230	225	216	213	224
総エネルギー (GJ/t)	21	20	21	22	23
用水 (m ³ /t)	17	17	17	20	23
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,119	1,091	1,064	1,150	1,210

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量 (t)	880	974	1,019	991	1,040
リサイクル率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.5	6.4	6.8
BOD (mg/l)	2,000	2,000	790.0	69.0	320.8
SS (mg/l)	2,000	2,000	540.0	45.0	288.8

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx (ppm)	6基	150	150	31	28
ばいじん (g/Nm ³)	6基	0.1	0.1	0.002	0.001

六甲工場



所在地

〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋
町西5-7

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力 (kWh/t)	1,492	1,689	1,268	1,143	1,077
燃料 (l/t)	159	192	178	165	148
総エネルギー (GJ/t)	21	24	19	17	16
用水 (m ³ /t)	30	33	31	30	29
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,132	1,305	988	796	768

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量 (t)	868	719	663	727	757
リサイクル率 (%)	99.1	99.8	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.4	7.1	7.3
BOD (mg/l)	2,000	180	9.0	2.0	5.5
SS (mg/l)	2,000	90	20.0	1.0	5.6

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx (ppm)	3基	150	40	22	22
ばいじん (g/Nm ³)	3基	0.1	0.02	0.001	0.001



所在地
〒663-8586
兵庫県西宮市高畑町4-27

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力（kWh/t）	802	869	988	1,123	1,093
燃料（l/t）	164	168	174	196	192
総エネルギー（GJ/t）	14	15	15	17	17
用水（m ³ /t）	23	24	25	27	27
CO ₂ （kg-CO ₂ /t）	759	805	786	800	812

※ 電力は購入電力のみ、燃料はコージェネシステム発電用を含む全燃料を計上しました。

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量（t）	2,313	2,016	2,600	2,948	3,235
リサイクル率（%）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.5	8.4	7.6	7.8
BOD（mg/l）	300	200	24.0	9.1	15.3
SS（mg/l）	750	400	40.5	5.0	19.1

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NO _x （ppm）	A（7基）	60	45	21	21
	B（2基）	150	120	25	23
ばいじん（g/Nm ³ ）	A（7基）	0.05	0.02	0.003	0.003
	B（2基）	0.05	0.02	0.004	0.004

豊橋工場



所在地

〒441-8686
愛知県豊橋市藤並町藤並
73

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力 (kWh/t)	1,414	1,327	1,231	1,307	1,276
燃料 (l/t)	175	167	162	166	162
総エネルギー (GJ/t)	21	19	18	19	19
用水 (m ³ /t)	51	48	44	46	46
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,250	1,181	1,065	1,112	1,065

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量 (t)	3,190	3,023	2,841	2,753	3,066
リサイクル率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.5～8.5	8.1	7.1	7.7
BOD (mg/l)	20	15	10.0	0.8	4.0
SS (mg/l)	20	15	7.0	1.0	3.7

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx (Nm ³ /h)	7基	2.2	1.0	0.058	0.041
NOx (ppm)	7基	-	180	100	76
ばいじん (g/Nm ³)	7基	-	0.1	0.003	0.002

東京工場



所在地

〒277-8586
千葉県柏市根戸1-3

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力 (kWh/t)	1,017	1,059	1,043	1,263	1,208
燃料 (l/t)	173	171	178	198	184
総エネルギー (GJ/t)	17	17	17	20	19
用水 (m ³ /t)	32	31	32	37	35
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	896	915	719	905	739

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量 (t)	6,097	5,974	6,045	5,239	5,268
リサイクル率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.0	7.0	7.5
BOD (mg/l)	10	9	2.2	0.5	1.3
SS (mg/l)	20	18	2.7	0.5	1.6

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx (ppm)	18基	150	120	46	31
ばいじん (g/Nm ³)	18基	0.1	0.08	0.001	0.001

取手工場



所在地

〒302-8586
茨城県取手市下高井1593

■ エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (生産原単位)

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力 (kWh/t)	-	-	1,130	1,004	911
燃料 (l/t)	-	-	108	96	92
総エネルギー (GJ/t)	-	-	15	13	12
用水 (m ³ /t)	-	-	13	11	10
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	-	-	797	713	633

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量 (t)	-	-	90	360	400
リサイクル率 (%)	-	-	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.1～8.9	5.1～8.9	7.5	7.4	7.45
BOD (mg/l)	600	600	74.8	41.0	57.9
SS (mg/l)	600	600	14.3	12.0	13.2



所在地
〒987-2195
宮城県栗原市高清水来光
沢20

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力（kWh/t）	1,024	914	926	931	892
燃料（l/t）	220	224	229	227	230
総エネルギー（GJ/t）	18	17	18	18	17
用水（m ³ /t）	35	36	37	38	36
CO ₂ （kg-CO ₂ /t）	1,141	1,090	1,147	1,141	1,105

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量（t）	4,247	3,842	3,819	3,966	4,223
リサイクル率（%）	100.0	99.9	99.9	99.9	99.9

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.5	8.1	8.2
BOD（mg/l）	160	120	36.0	2.9	7.0
SS（mg/l）	200	100	11.0	2.0	4.5

■ 大気関係測定データ

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SO _x （Nm ³ /h）	A（5基）	0.98	0.5	0.045	0.030
	B（1基）	8.31	0.5	0.012	0.012
NO _x （ppm）	A（5基）	180	150	116	97
	B（1基）	180	150	94	74
ばいじん（g/Nm ³ ）	A（5基）	0.3	0.1	0.049	0.018
	B（1基）	0.3	0.1	0.080	0.044

伊藤ハムデイルー株式会社 小樽工場



所在地

〒061-3271
北海道小樽市銭函5-61-3

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力（kWh/t）	1,187	1,163	927	1,010	1,018
燃料（l/t）	169	167	177	180	185
総エネルギー（GJ/t）	18	18	16	17	17
用水（m ³ /t）	21	21	22	23	23
CO ₂ （kg-CO ₂ /t）	1,112	1,093	1,111	1,097	1,045

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量（t）	328	327	275	310	356
リサイクル率（%）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7～8.7	6.5～8.5	7.8	6.4	6.9
BOD（mg/l）	300	150	210.0	82.0	125.6
SS（mg/l）	300	150	230.0	44.0	120.8

■ 大気関係測定データ

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx（ppm）	3基	180	150	33	21
ばいじん（g/Nm ³ ）	3基	0.3	0.1	0.010	0.010

伊藤ハムデイルー株式会社 北陸工場



所在地

〒932-0131
富山県小矢部市名畑5068

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力（kWh/t）	1,078	1,032	1,004	975	883
燃料（l/t）	185	173	164	175	163
総エネルギー（GJ/t）	18	17	16	16	15
用水（m ³ /t）	36	36	32	26	25
CO ₂ （kg-CO ₂ /t）	1,091	1,035	1,104	1,081	1,006

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量 (t)	295	351	354	406	462
リサイクル率 (%)	98.6	98.6	99.3	98.1	98.7

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	6.0～8.0	6.0～8.0	7.5	6.9	7.4
BOD (mg/l)	50	10	10.0	0.6	5.9
SS (mg/l)	60	30	14.0	2.0	6.1

■ 大気関係測定データ

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx (Nm ³ /h)	3基	2.1	0.1	0.100	0.037
NOx (ppm)	3基	-	150	93	72
ばいじん (g/Nm ³)	3基	0.2	0.1	0.010	0.010

伊藤ハムウエスト株式会社 九州工場



所在地

〒841-0202
佐賀県三養基郡基山町長
野970-1

■ エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (生産原単位)

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力 (kWh/t)	1,581	1,581	1,384	1,340	1,318
燃料 (l/t)	297	291	296	306	277
総エネルギー (GJ/t)	27	27	25	25	24
用水 (m ³ /t)	37	37	36	35	33
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,460	1,449	1,420	1,413	1,305

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量 (t)	3,268	3,504	3,724	3,862	4,231
リサイクル率 (%)	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.5	7.9	7.5	7.7
BOD (mg/l)	30	25	10.0	1.4	3.3
SS (mg/l)	25	20	19.0	3.2	8.9

■ 大気関係測定データ

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx (ppm)	7基	150	140	32	20
ばいじん (g/Nm ³)	7基	0.1	0.006	0.001	0.001

サンキョーミート株式会社 有明ミート工場



所在地
〒899-7402
鹿児島県志布志市有明町
野井倉 6 9 6 5

■ エネルギー使用量と二酸化炭素（CO₂）排出量（生産原単位）

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力 (kWh/t)	209	208	210	218	212
燃料 (l/t)	17	17	15	16	13
総エネルギー (GJ/t)	3	3	3	3	3
用水 (m ³ /t)	14	13	13	14	14
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	161	154	170	172	148

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量 (t)	7,426	8,521	5,259	5,982	6,012
リサイクル率 (%)	92.4	92.4	89.6	90.9	91.8

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.0	7.8	7.4	7.6
BOD (mg/l)	30	15	7.4	2.7	5.5
SS (mg/l)	40	15	5.0	2.0	3.3

■ 大気関係測定データ

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx (ppm)	5基	-	-	14	12
ばいじん (g/Nm ³)	5基	0.3	0.2	0.001	0.001

サンキョーミート株式会社 霧島ミート工場



所在地

〒886-0004
宮崎県小林市細野
2 5 1 6

■ エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (生産原単位)

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電力 (kWh/t)	130	104	101	101	97
燃料 (l/t)	6	6	6	5	5
総エネルギー (GJ/t)	2	1	1	1	1
用水 (m ³ /t)	1	1	1	1	1
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	88	70	77	75	70

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
排出量 (t)	2,347	3,063	3,210	107	67
リサイクル率 (%)	99.9	99.9	99.9	99.2	97.9

※2014年度より、豚脂、豚骨を廃棄物扱いではなく製品として出荷、計上したため、排出量が大幅に減少しています。

■ 排水水質関係測定データ

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.0~7.8	7.7	6.9	7.4
BOD (mg/l)	160	100	4.2	1.3	2.7
SS (mg/l)	200	50	6.0	0.5	3.6

■ 大気関係測定データ

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx (Nm ³ /h)	A(1基)	1.1	1	0.170	0.155
	B(2基)	1.1	1	0.160	0.150
NOx (ppm)	A(1基)	180	150	53	48
	B(2基)	180	150	77	71
ばいじん (g/Nm ³)	A(1基)	0.3	0.2	0.160	0.011
	B(2基)	0.3	0.2	0.005	0.005

環境保全活動の沿革

年月	当社の主な取り組み内容
1965年	廃水処理設備の導入開始
1973年	都市ガス燃料ボイラーの導入開始
1991年	生産各工場に「環境管理室」を設置
1993年	生産事業本部に「環境安全担当」を設置
1994年	大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減
1998年	「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置 全社的な環境活動推進組織「環境委員会」を設置 「環境委員会・生産部会」を設置
1999年	「伊藤ハムグループ環境基本方針」を制定 東京工場が廃棄物計量システムを初めて導入 
2000年	西宮工場、東京工場、豊橋工場がISO14001を認証取得  環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始 環境報告書を初めて発行  ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み（現CSRの取り組み）」を開設
2001年	六甲工場がISO14001を認証取得 中期経営計画において環境活動3カ年計画を策定（以降、期間満了ごとに3カ年計画を策定） グリーン購入基本方針制定  生産工場を対象に環境会計を導入  西宮工場で都市ガスによるコージェネシステムが稼働 

2002年	九州工場、サンキョーミート(株)有明ミート工場・霧島ミート工場がISO14001を認証取得	
	コンプライアンス・ハンドブックを従業員に配布	
	日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞	
	社会貢献活動理念と活動方針を策定	
2003年	「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の取り組みを開始	
	「クリーンアップin甲子園浜」(初めての自主企画)を実施	
	こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し、本格的な森林保護活動がスタート	
2004年	伊藤ハムデイリー(株)東北工場がISO14001認証取得	
	全国農林水産関連企業環境対策協議会より感謝状を受賞	
	平木小学校(西宮市)において環境学習「出前授業」を初めて実施	
2005年	自然保護をテーマにした「“食とeco”わくわく探検隊」を初めて実施(春・秋)	
2006年	伊藤ハムデイリー(株)小樽工場がISO14001を認証取得	
	社会貢献活動「環境学習都市にしのみやパートナーシッププログラム事業」(「“食とeco”わくわく探検隊」と「クリーンアップin甲子園浜」の2つのイベント)に対し西宮市長より感謝状を受賞	
	伊藤ハムデイリー(株)北陸工場がISO14001を認証取得	
	「ハム工場を学ぼう」を初めて実施	
2008年	「環境委員会 食肉生産部会」を設置	
	食育イベント「スマイルキャラバン」を実施	
2009年	西宮工場で「太陽光発電設備」が稼働	

2010年	(株)藤栄、沖縄フレッシュパック(株)、IHミートパッカー(株)、IHミートソリューション(株)がISO14001を認証取得	
2011年	伊藤ハムデイリー(株)東北工場を拠点としてスマイルキャラバン号による炊き出し活動を実施	
2014年	サンキョーミート(株)有明ミート工場が省エネの推進に貢献したとして「九州経済産業局長賞」を受賞	
2016年	「兵庫県環境にやさしい事業者賞」受賞	